

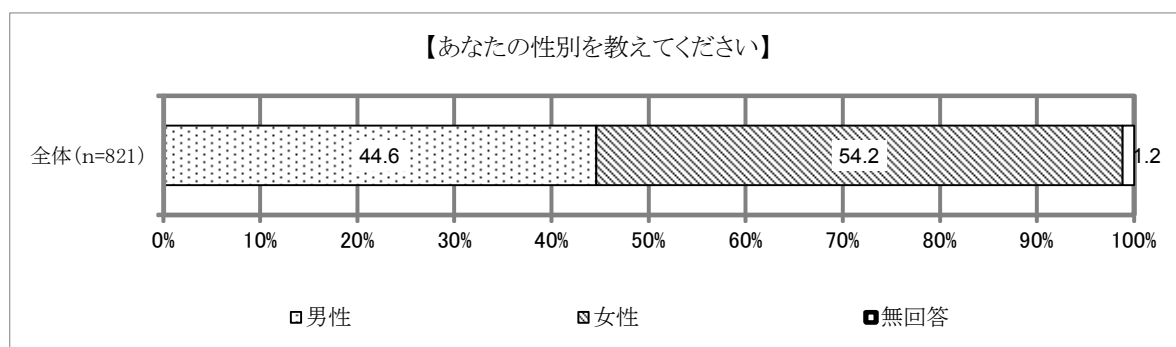
地域福祉に関するアンケート調査（高萩市実施）

I 一般市民アンケート 集計結果

1 あなた自身のことについて

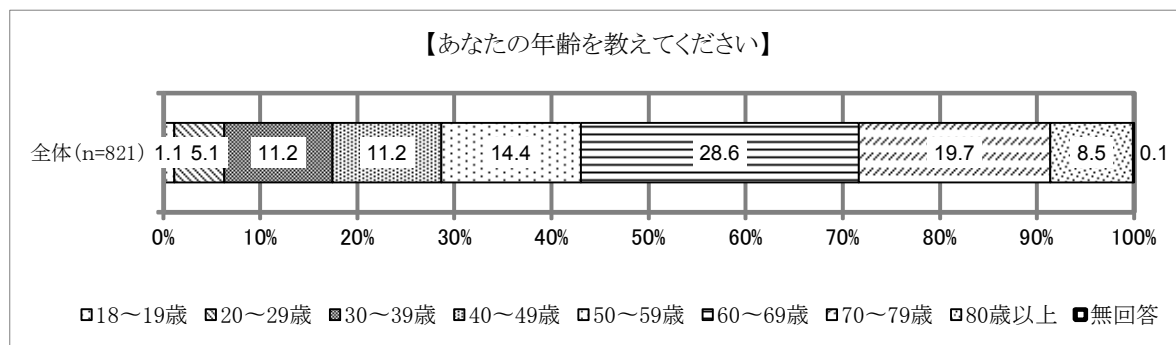
問1 あなたの性別を教えてください。（どちらかに○）

性別は、「男性」が44.6%、「女性」が54.2%と、女性の比率が若干高い。



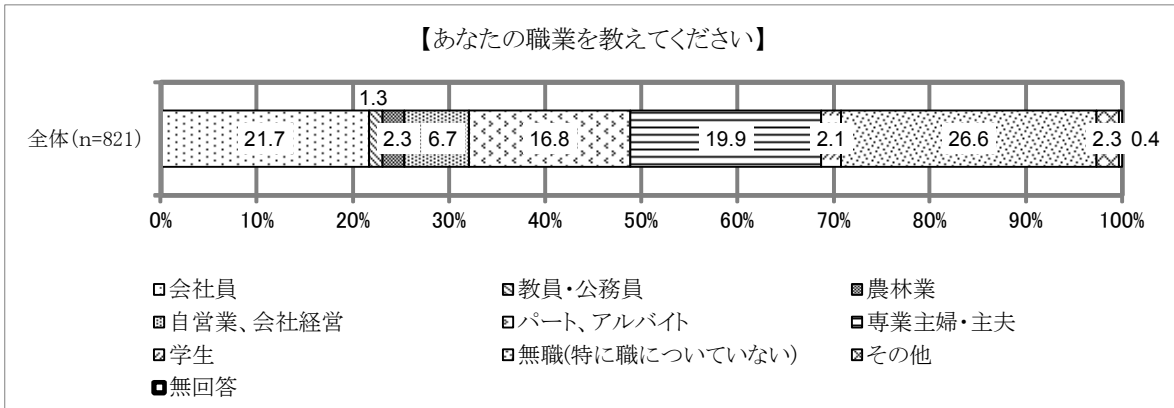
問2 あなたの年齢を教えてください。（1つだけに○）

年齢は、「60～69歳」が28.6%と最も高く、「70～79歳」(19.7%)及び「80歳以上」(8.5%)と合わせると、“60歳以上”が過半数を占める。一方、「18～19歳」は1.1%、「20～29歳」は5.1%と、若い世代の回答は少数である。



問3 あなたの職業を教えてください。(1つだけに○)

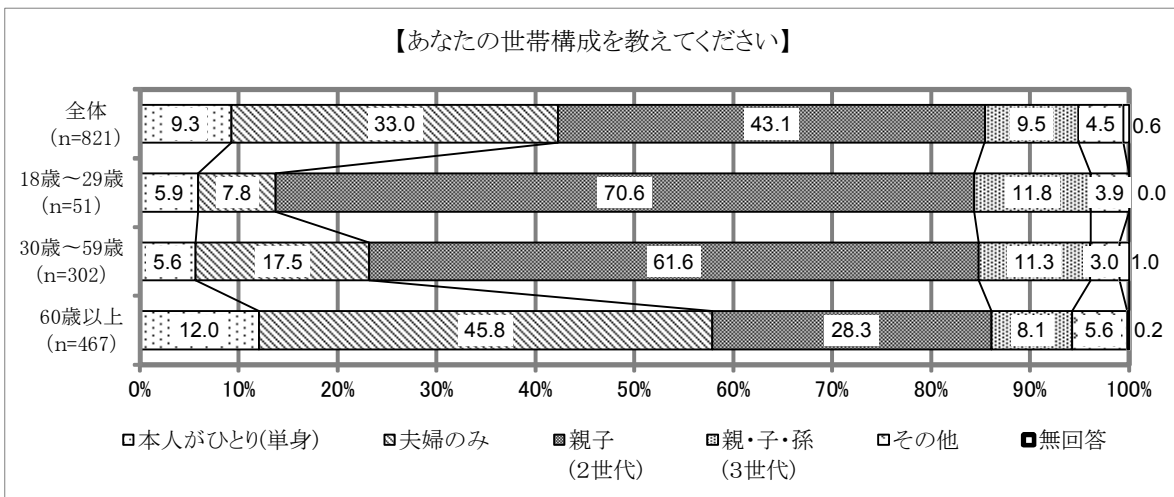
年齢の高い方の回答が多いこともあり、職業では「無職(特に職についていない)」が26.6%で最も多い。以下、「会社員」(21.7%)、「専業主婦・主夫」(19.9%)、「パート、アルバイト」(16.8%)と続く。



問4 あなたの世帯構成を教えてください。(1つだけに○)

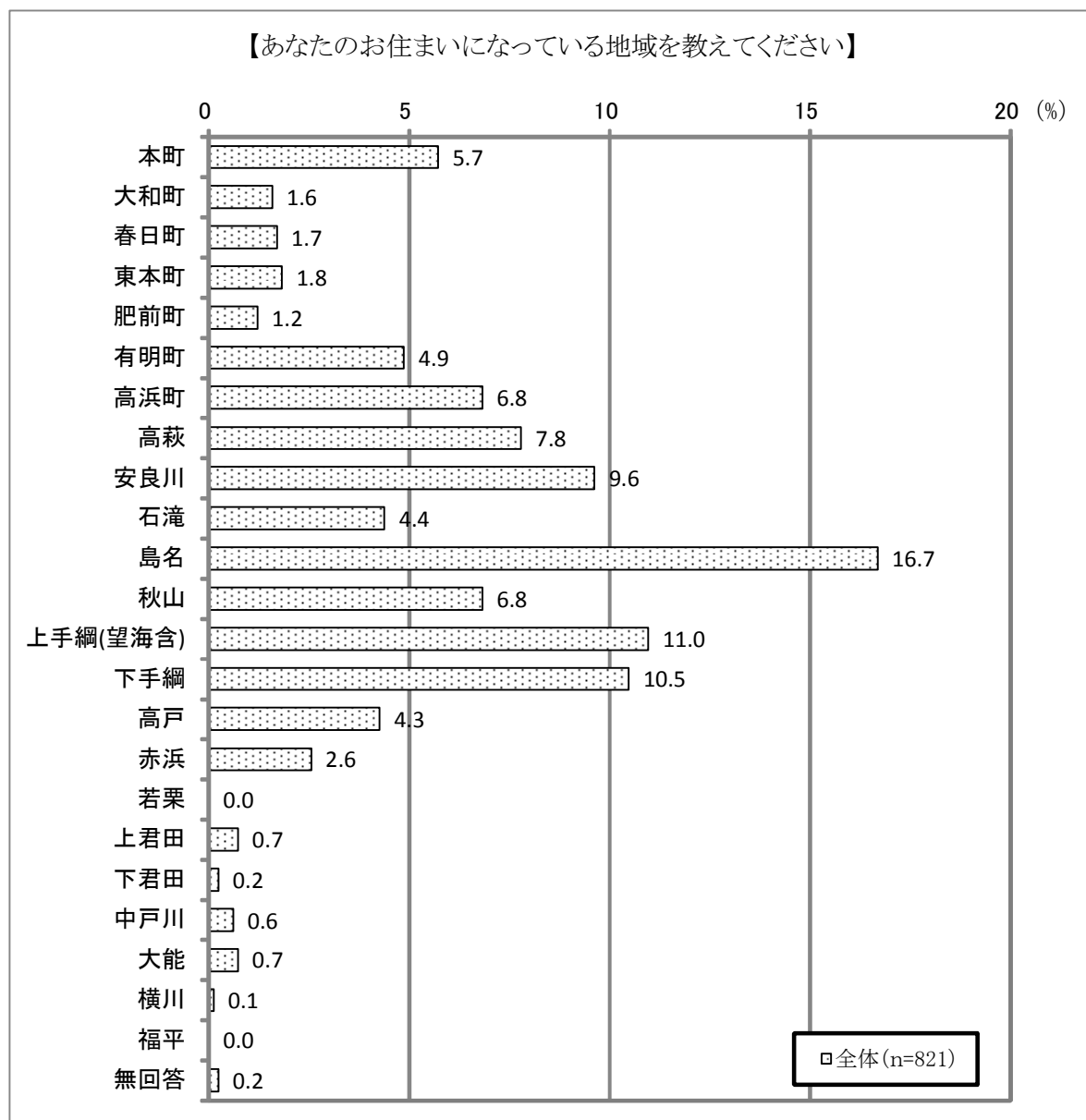
世帯構成は、「親子(2世代)」が43.1%と最も比率が高く、以下「夫婦のみ」33.0%、「親・子・孫(3世代)」9.5%、「本人がひとり(単身)」9.3%となっている。

59歳以下の若い世代は「親子(2世代)」の比率が概ね6~7割を占めているが、60歳以上では「夫婦のみ」が45.8%と最も高く、また、「本人がひとり(単身)」も12.0%と他の年代より高い。



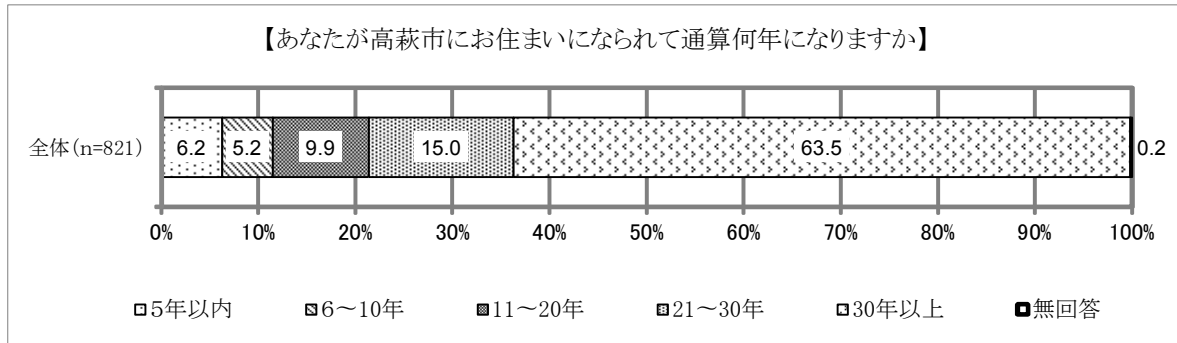
問5 あなたのお住まいになっている地域を教えてください。(1つだけに○)

お住まいの地域は、「島名」が16.7%と最も高く、以下「上手綱(望海含)」11.0%、「下手綱」10.5%、「安良川」9.6%と続く。



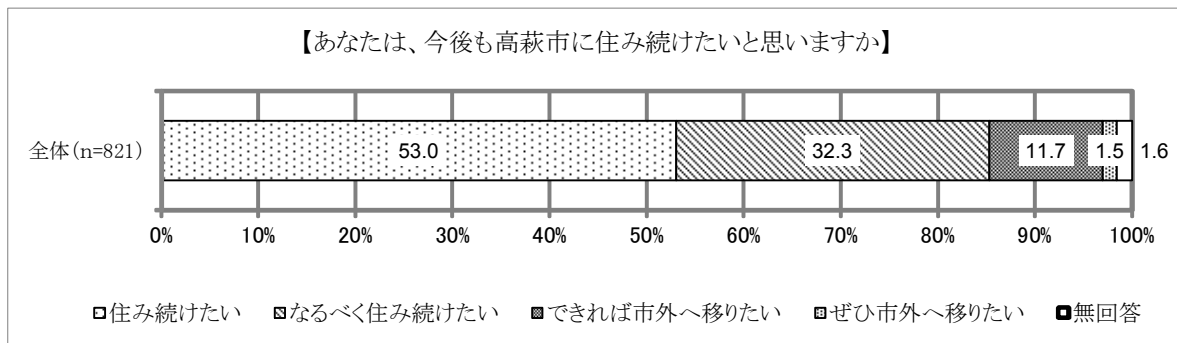
問6 あなたが高萩市にお住まいになられて通算何年になりますか。（1つだけに○）

高萩市の居住歴は、「30年以上」が63.5%と全体の2/3近くを占める。以下、「21～30年」が15.0%、「11～20年」が9.9%、「5年以内」が6.2%、「6～10年」が5.2%と続いている。



問7 あなたは、今後も高萩市に住み続けたいと思いますか。（1つだけに○）

今後も高萩市に住み続けたいかについては、「住み続けたい」が53.0%で過半数を占めており、「なるべく住み続けたい」（32.3%）と合わせると、“住み続けたい”意向が85%以上を占める。

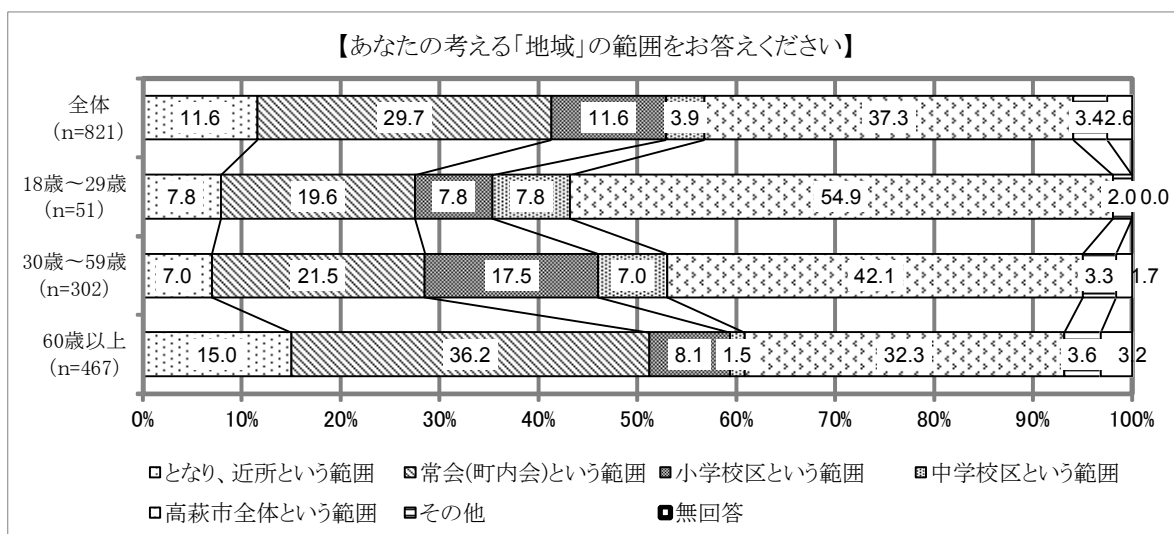


2 地域生活について

問8 あなたの考える「地域」の範囲をお答えください。(1つだけに○)

あなたの考える「地域」の範囲については、「高萩市全体という範囲」が37.3%で最も高く、次いで「常会（町内会）という範囲」が29.7%、「となり、近所という範囲」及び「小学校区という範囲」がともに11.6%となっている。

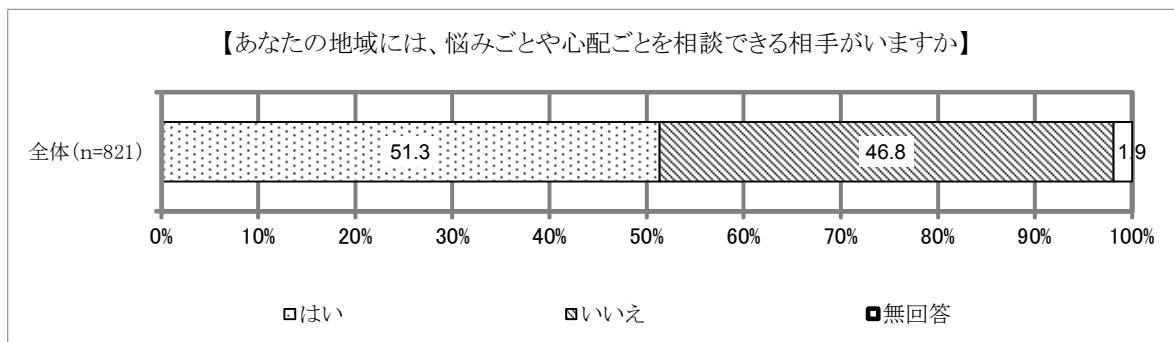
18歳～29歳は「高萩市全体という範囲」（54.9%）が、30歳～59歳は「小学校区という範囲」（17.5%）が、60歳以上では「常会（町内会）という範囲」（36.2%）が、それぞれ他の年代と比較して高い。



問9 あなたの地域には、悩みごとや心配ごとを相談できる相手がありますか。

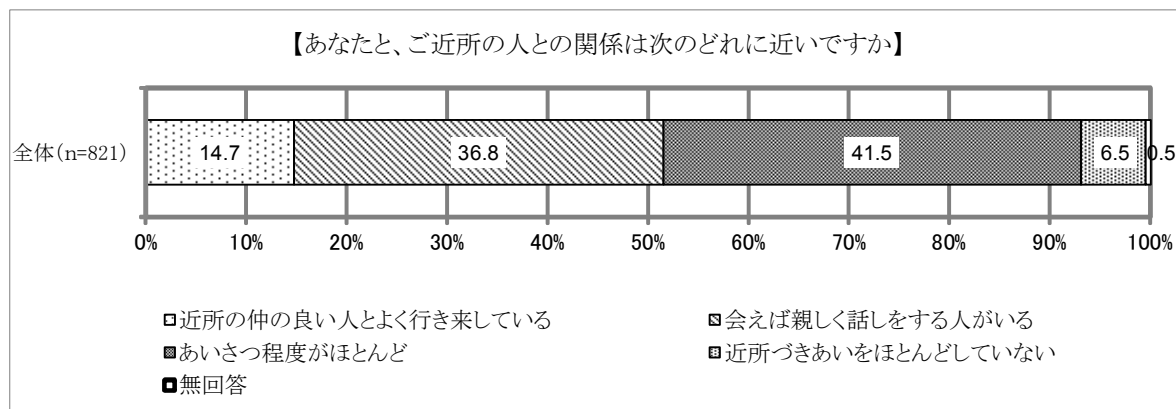
(1つだけに○)

地域に悩みごとや心配ごとを相談できる相手がいるかについては、「はい」が51.3%、「いいえ」が46.8%と、わずかに「はい」の比率が高い。



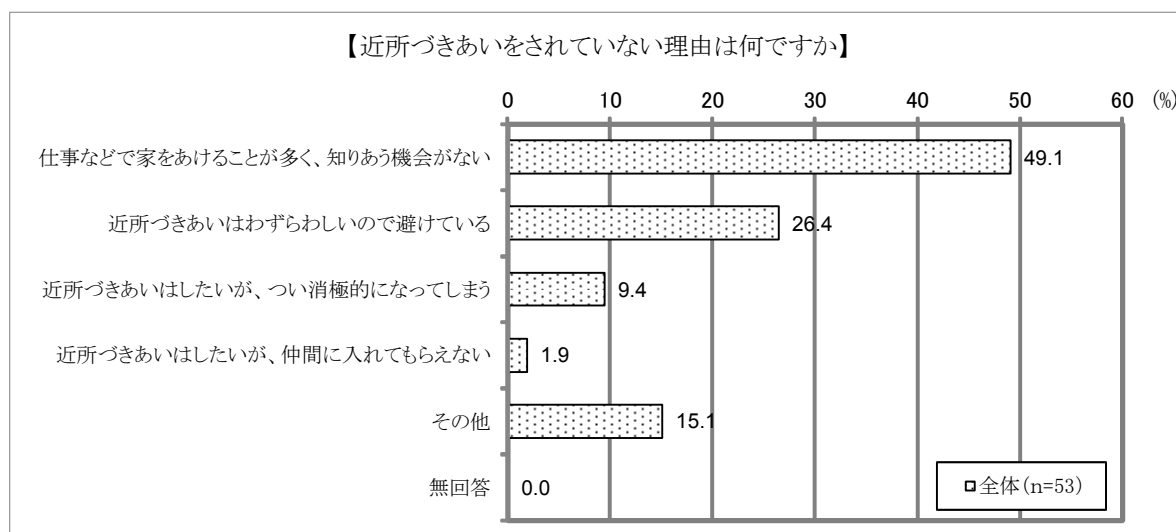
問10 あなたと、ご近所の人との関係は次のどれに近いですか。（1つだけに○）

近所の人との関係については、「あいさつ程度がほとんど」が41.5%と最も高く、次いで「会えば親しく話しをする人がいる」が36.8%、「近所の仲の良い人とよく行き来している」が14.7%となっている。「近所づきあいをほとんどしていない」は6.5%となっている。



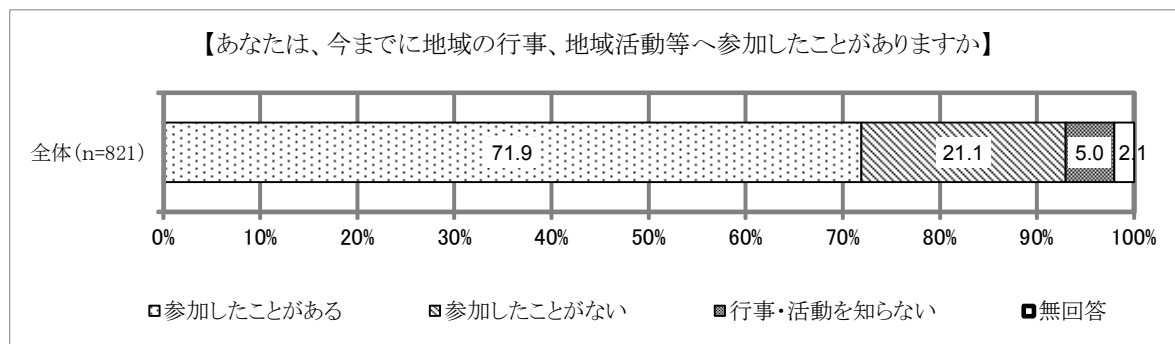
問11 問10で「4. 近所づきあいをほとんどしていない」と答えた方におうかがいします。近所づきあいをされていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

近所づきあいをされていない理由は、「仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない」が49.1%で最も高く、次いで「近所づきあいはわずらわしいので避けている」が26.4%、「近所づきあいはしたいが、つい消極的になってしまう」が9.4%となっている。なお「近所づきあいはしたいが、仲間に入れてもらえない」は1.9%となっている。



問12 あなたは、今までに地域の行事、地域活動等へ参加したことがありますか。
(1つだけに○)

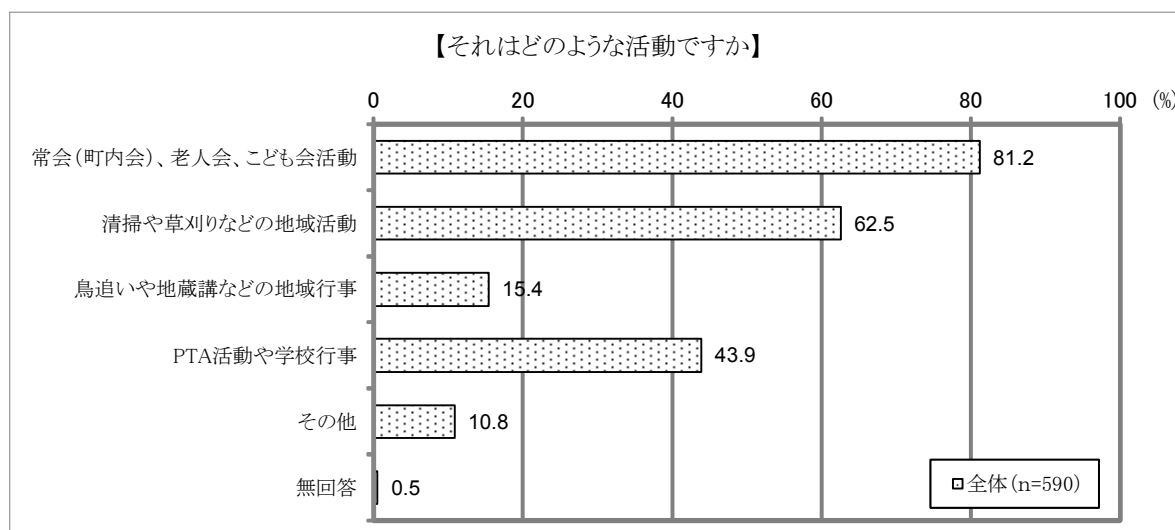
今までに地域の行事、地域活動等へ参加したことがあるかについては、「参加したことがある」が71.9%と多数を占め、「参加したことがない」は21.1%、「行事・活動を知らない」は5.0%となっている。



問13 問12で「1. 参加したことがある」と答えた方におうかがいします。それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

参加したことがある活動は、「常会（町内会）、老人会、子ども会活動」（81.2%）や「清掃や草刈りなどの地域活動」（62.5%）は過半数を占め、「PTA活動や学校行事」は43.9%、「鳥追いや地蔵講などの地域行事」は15.4%となっている。

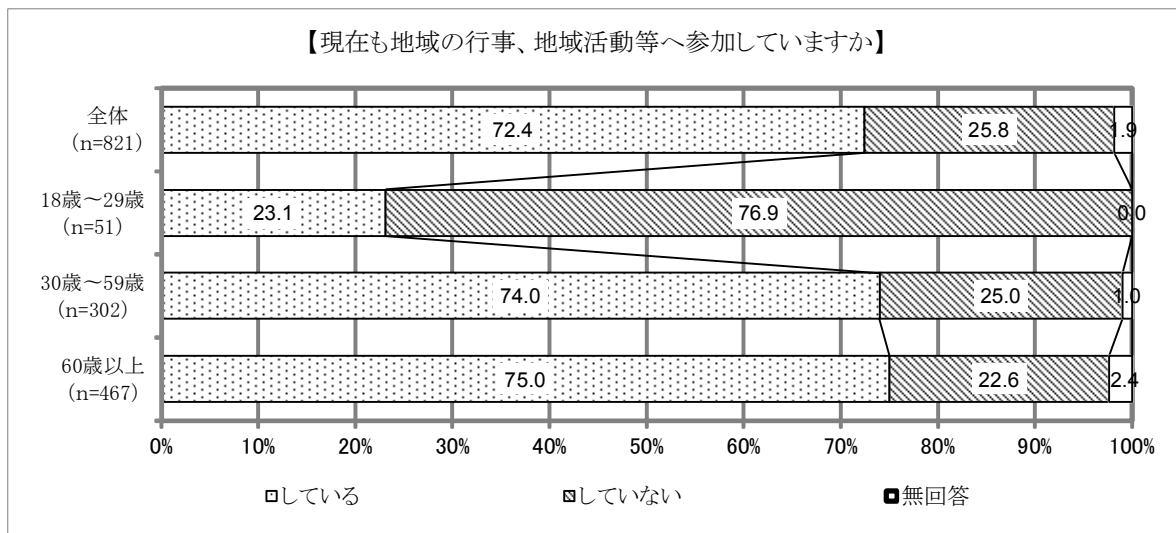
なお、「その他」（10.8%）の回答では、“公民館活動”や“お祭り”、“ボランティア活動”などの回答が多くみられた。



問14 問12で「1. 参加したことがある」と答えた方におうかがいします。現在も地域の行事、地域活動等へ参加していますか。（1つだけに○）

現在も地域の行事、地域活動等へ参加しているかについては、「している」が72.4%と多数を占める。

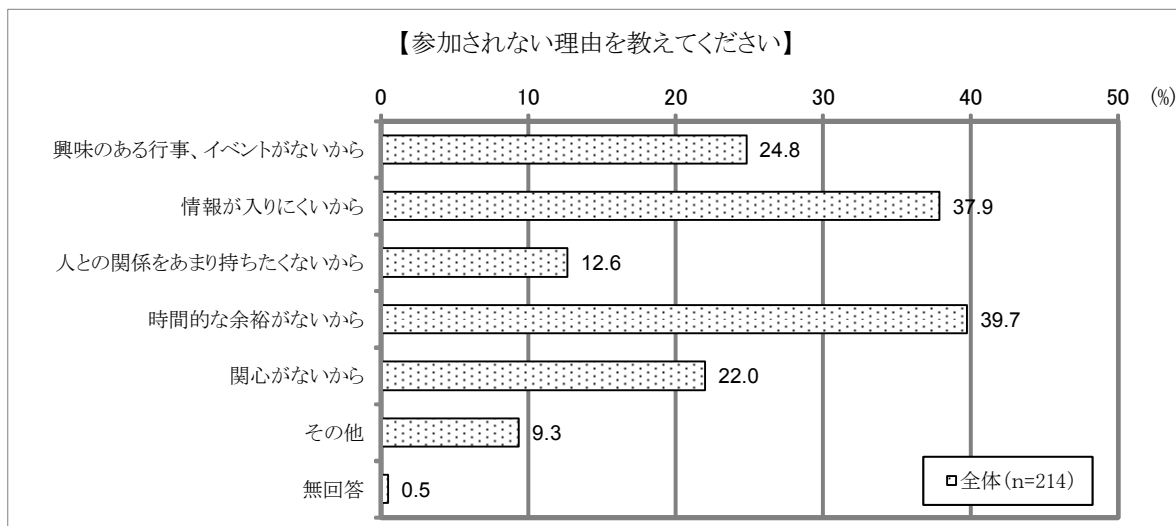
年代別にみると、30歳以上の年代では「している」が7割を超えるのに対し、18歳～29歳の年代では23.1%と極めて低い結果となっている。



問15 問12で「2. 参加したことがない」「3. 行事・活動を知らない」と答えた方におうかがいします。参加されない理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

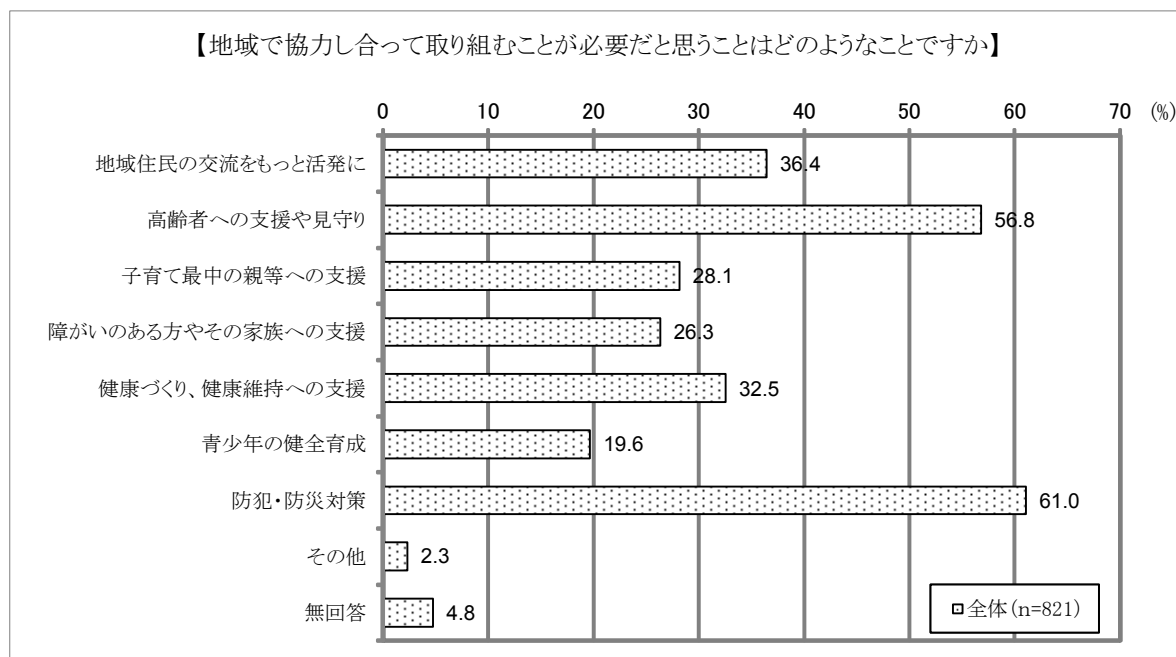
行事・活動に参加されない理由は、「時間的な余裕がないから」(39.7%)及び「情報が入りにくいから」(37.9%)が4割近くを占め、以下、「興味のある行事、イベントがないから」(24.8%)、「関心がないから」(22.0%)、「人との関係をあまり持ちたくないから」(12.6%)と続く。

なお、「その他」の回答では、“住み始めて間もない”、“健康に自信がない”などの回答があった。



問16 地域で協力し合って取り組むことが必要だと思うことはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

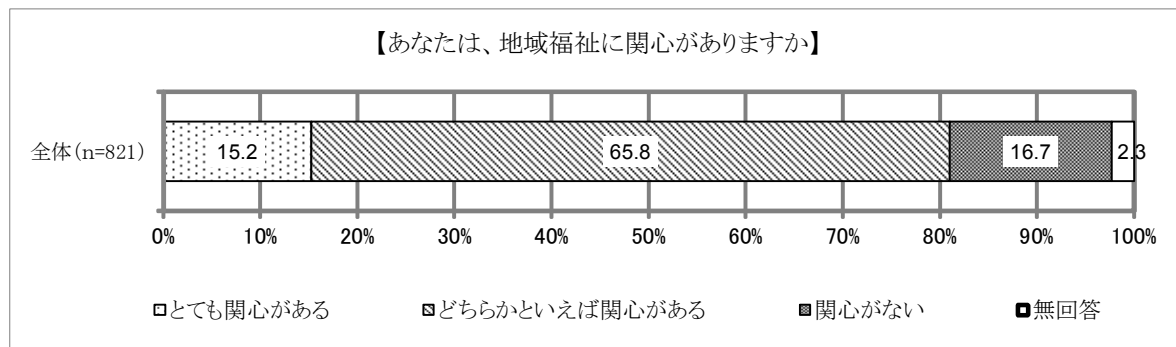
地域で協力し合って取り組むことが必要だと思うことは「防犯・防災対策」(61.0%)が最も比率が高く、次いで「高齢者への支援や見守り」(56.8%)である。以下、「地域住民の交流をもっと活発に」(36.4%)、「健康づくり、健康維持への支援」(32.5%)などと続く。



3 地域福祉に対する意識や活動について

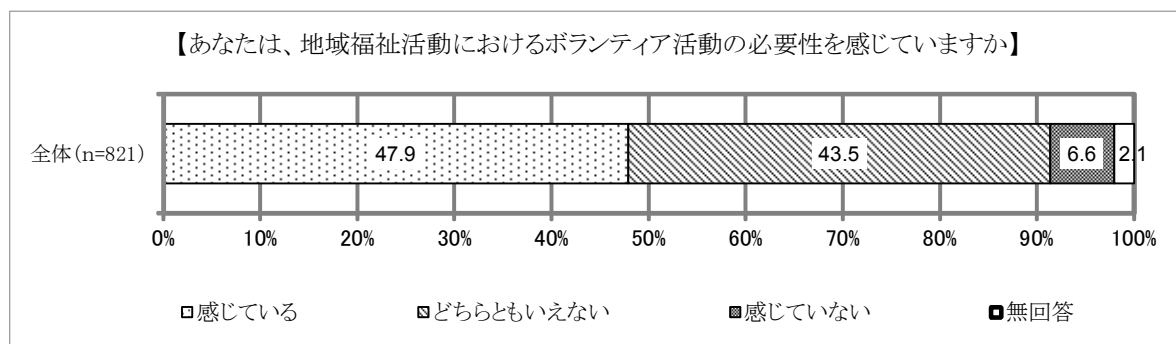
問17 あなたは、地域福祉に関心がありますか。（1つだけに○）

地域福祉について、「とても関心がある」は15.2%であるが、「どちらかといえば関心がある」(65.8%)と合わせると、「関心がある」方は8割を超える。なお、「関心がない」は16.7%である。



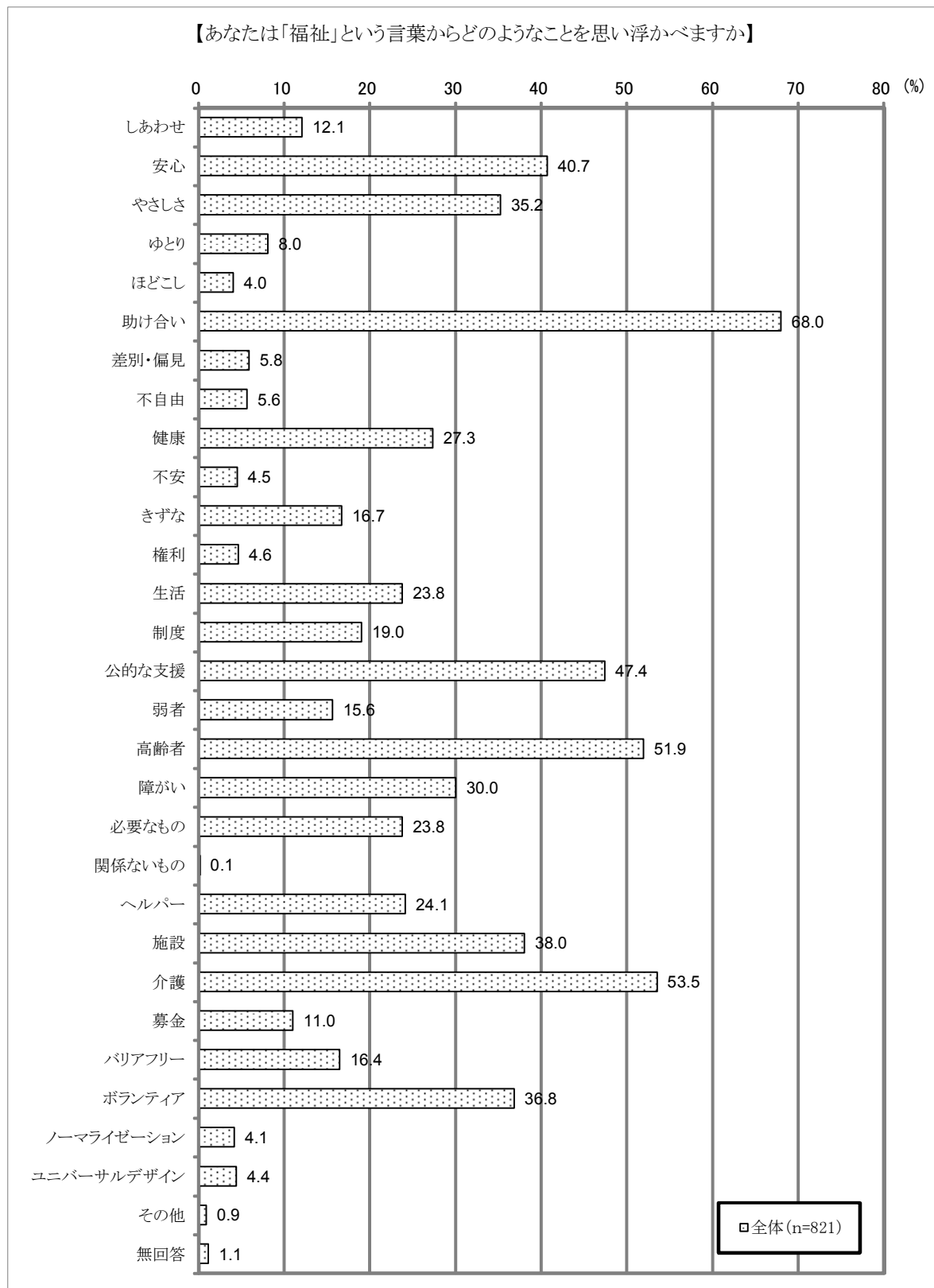
問18 あなたは、地域福祉活動におけるボランティア活動の必要性を感じていますか。（1つだけに○）

地域福祉活動におけるボランティア活動の必要性については、「感じている」が47.9%であり、「感じていない」の6.6%を大きく上回っている。なお、「どちらともいえない」は43.5%となっている。



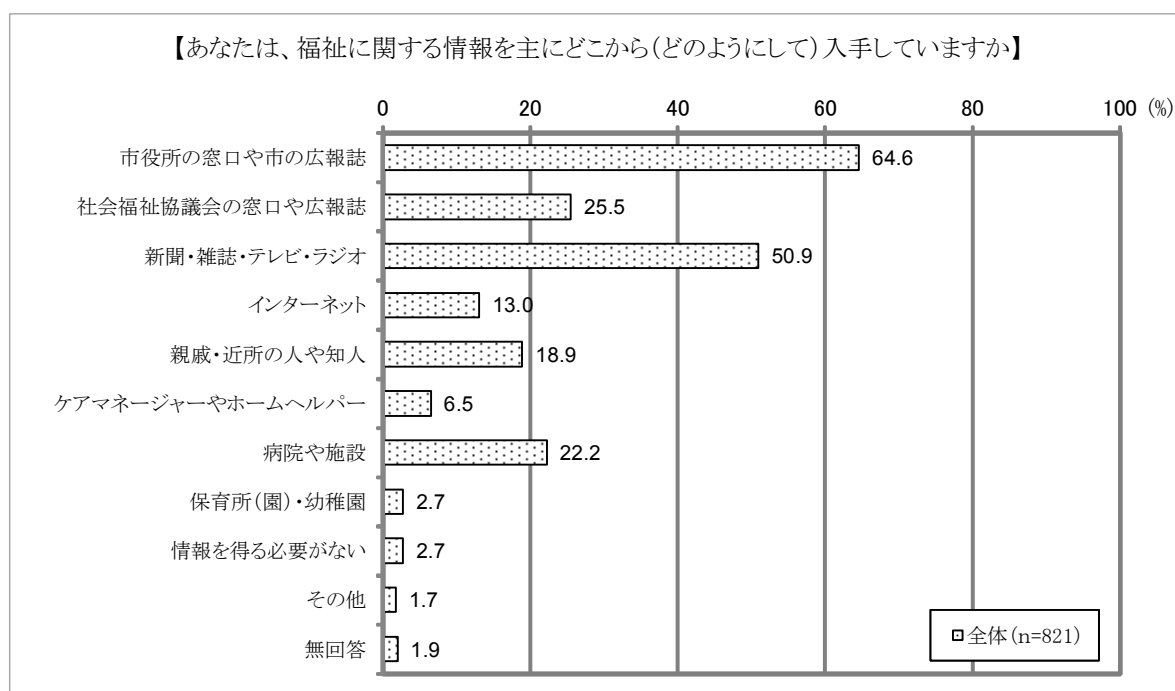
問19 あなたは「福祉」という言葉からどのようなことを思い浮かべますか。(あてはまるものすべてに○)

「福祉」という言葉から思い浮かぶことは、「助け合い」(68.0%)や「介護」(53.5%)、「高齢者」(51.9%)、「公的な支援」(47.4%)、「安心」(40.7%)などが上位を占める。



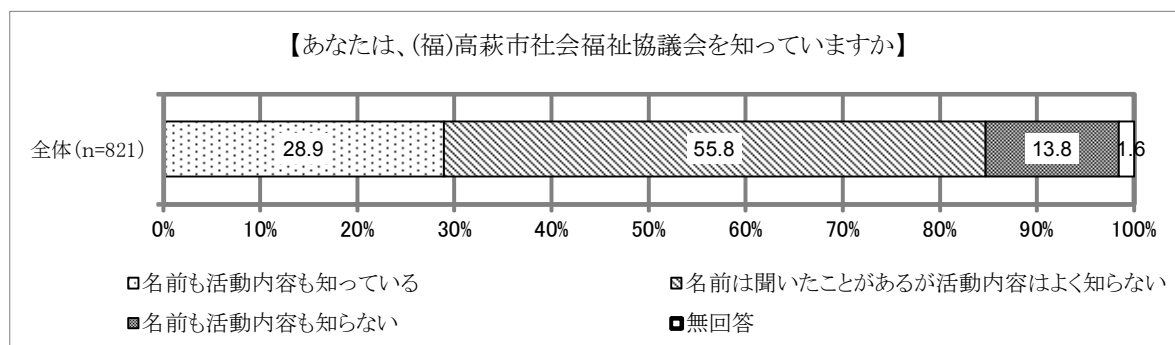
問20 あなたは、福祉に関する情報を主にどこから（どのようにして）入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

福祉に関する情報の入手先は、「市役所の窓口や市の広報誌」が64.6%と最も高く、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が50.9%となっており、以下「社会福祉協議会の窓口や広報誌」(25.5%)、「病院や施設」(22.2%)、「親戚・近所の人や知人」(18.9%)と続く。



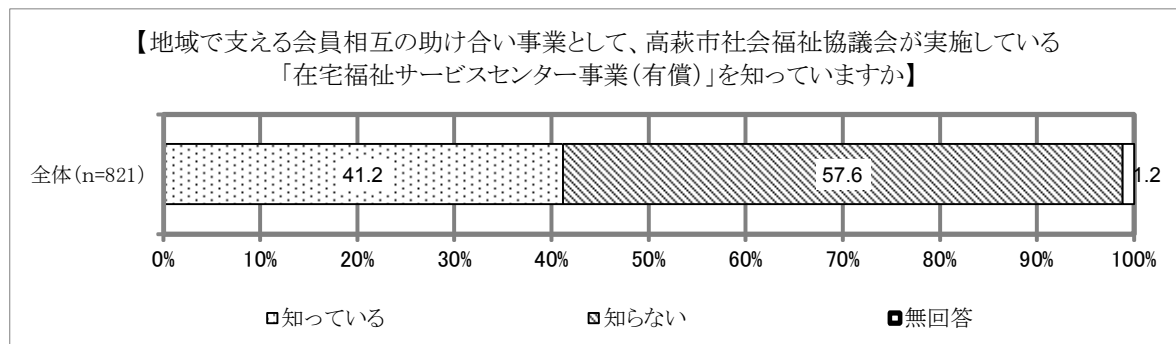
問21 市には、地域福祉を推進し、各種福祉サービス、ボランティア活動等の情報を把握、提供する組織として(福)高萩市社会福祉協議会があります。あなたはこの組織を知っていますか。（1つだけに○）

(福)高萩市社会福祉協議会について、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」が55.8%と最も高く、「名前も活動内容も知っている」は28.9%、「名前も活動内容も知らない」は13.8%となっている。



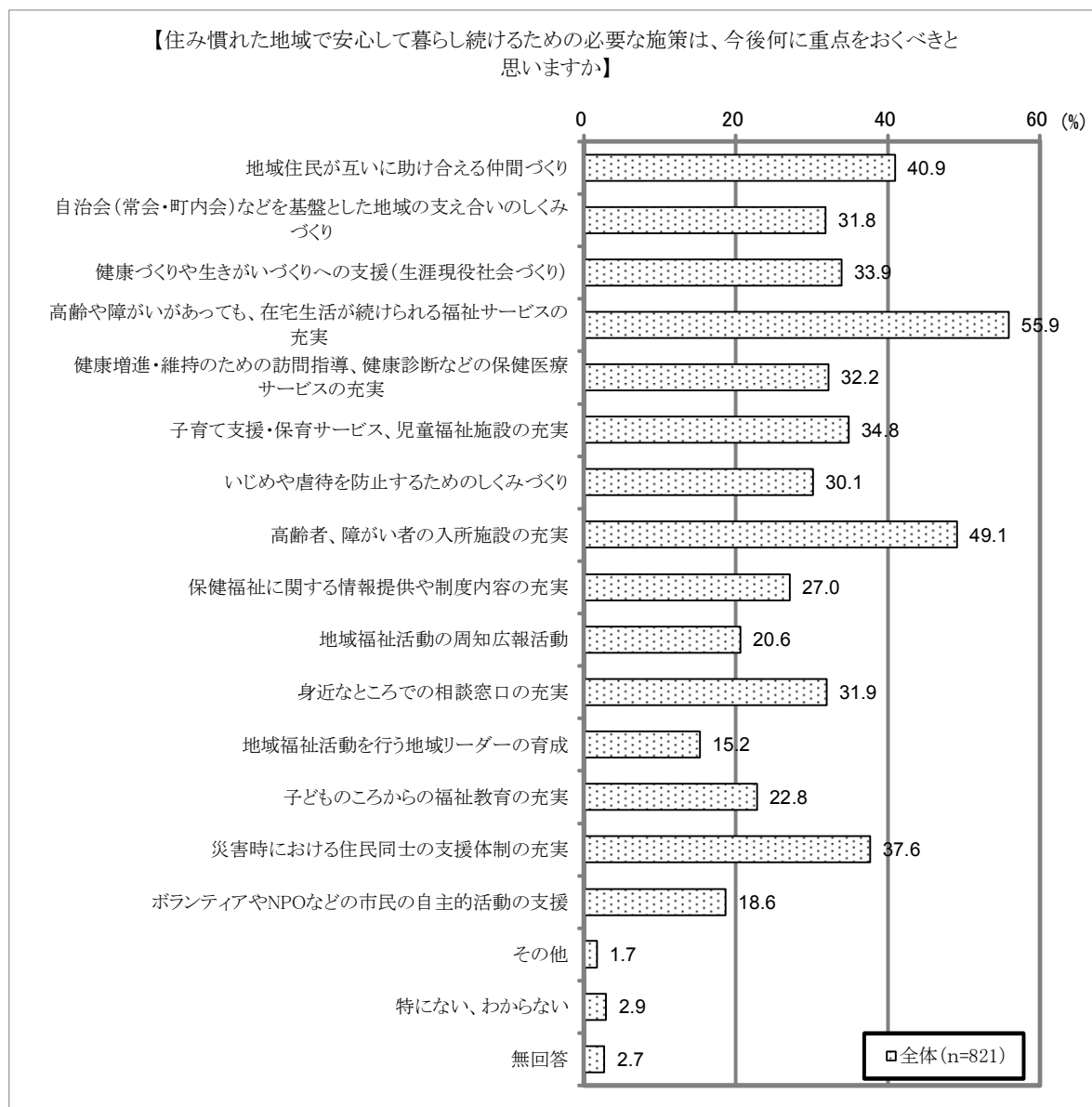
問22 地域で支える会員相互の助け合い事業として、高萩市社会福祉協議会が実施している「在宅福祉サービスセンター事業（有償）」を知っていますか。（どちらかに○）

「在宅福祉サービスセンター事業（有償）」について、「知っている」は41.2%であり、「知らない」(57.6%)方が多い。



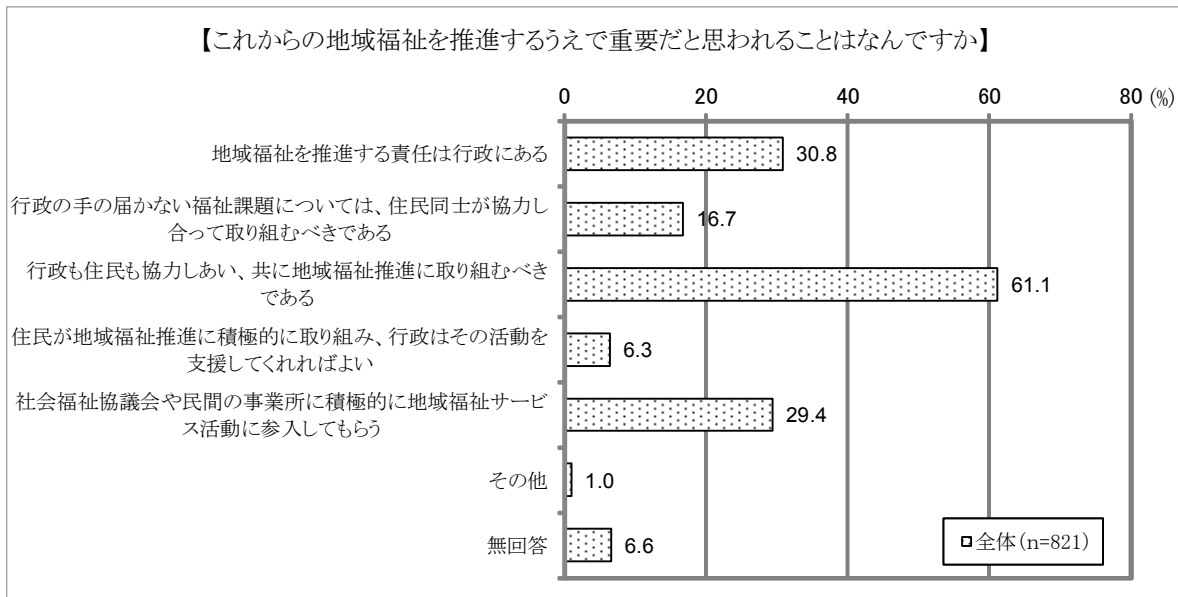
問23 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための必要な施策は、今後何に重点をおくべきと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

重点とすべきことは、「高齢や障がいがあっても、在宅生活が続けられる福祉サービスの充実」が55.9%と最も高く、以下、「高齢者、障がい者の入所施設の充実」(49.1%)、「地域住民が互いに助け合える仲間づくり」(40.9%)、「災害時における住民同士の支援体制の充実」(37.6%)などと続く。



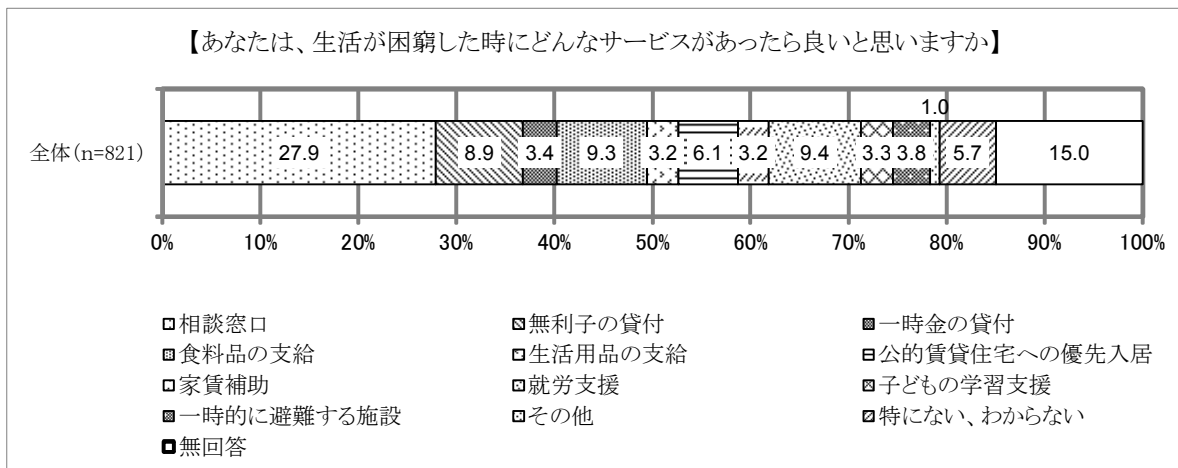
問 2 4 これからの地域福祉を推進するうえで重要だと思われることはなんですか。
 (あなたのお考えに最も近いものに2つまで○)

地域福祉を推進するうえで重要と思うことは、「行政も住民も協力しあい、共に地域福祉推進に取り組むべきである」が 61.1%と最も多い。一方、「地域福祉を推進する責任は行政にある」が 30.8%で 2 番目に高く、次いで、「社会福祉協議会や民間の事業所に積極的に地域福祉サービス活動に参入してもらう」(29.4%) となっている。



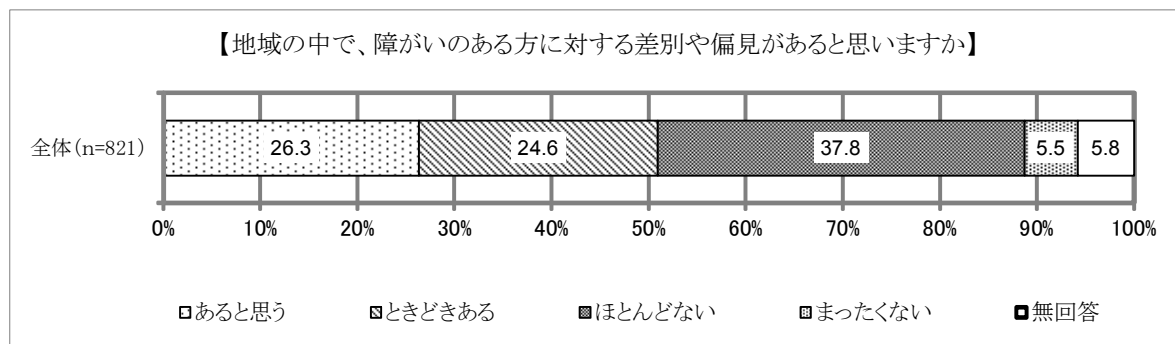
問 2 5 あなたは、生活が困窮した時にどんなサービスがあったら良いと思いますか。
 (1つだけに○)

生活が困窮した時にあったら良いと思うサービスは、「相談窓口」が 27.9%と最も高い。他はいずれも 10%未満であり、「就労支援」(9.4%)、「食料品の支給」(9.3%)、「無利子の貸付」(8.9%)、「公的賃貸住宅への優先入居」(6.1%) の順となっている。



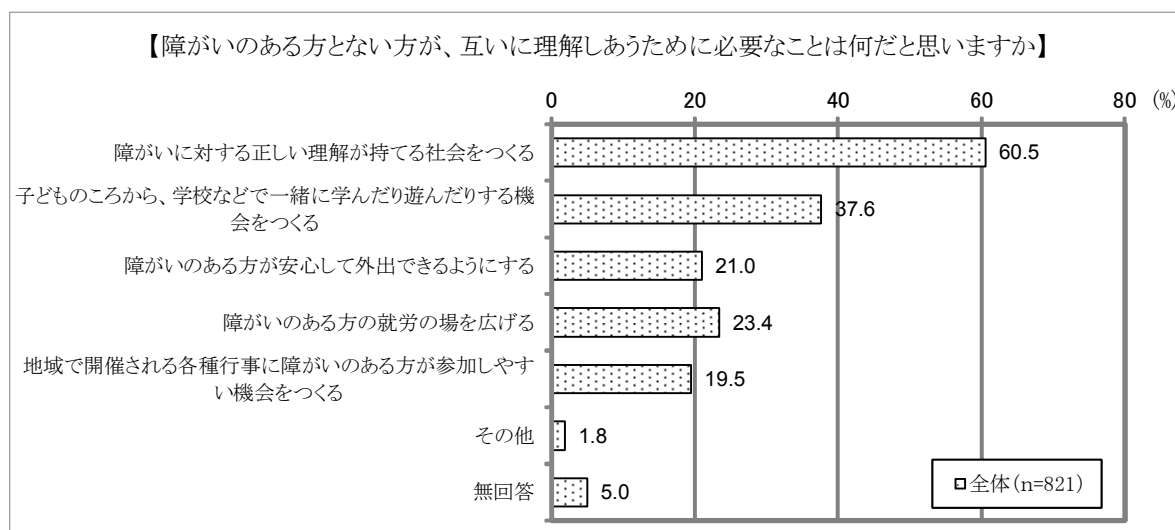
問26 地域の中で、障がいのある方に対する差別や偏見があると思いますか。
(1つだけに○)

障がいのある方に対する差別や偏見は、「ほとんどない」が37.8%と最も高い比率となっているが、「あると思う」(26.3%)と「ときどきある」(24.6%)を合わせると50.9%が“ある”と感じている。



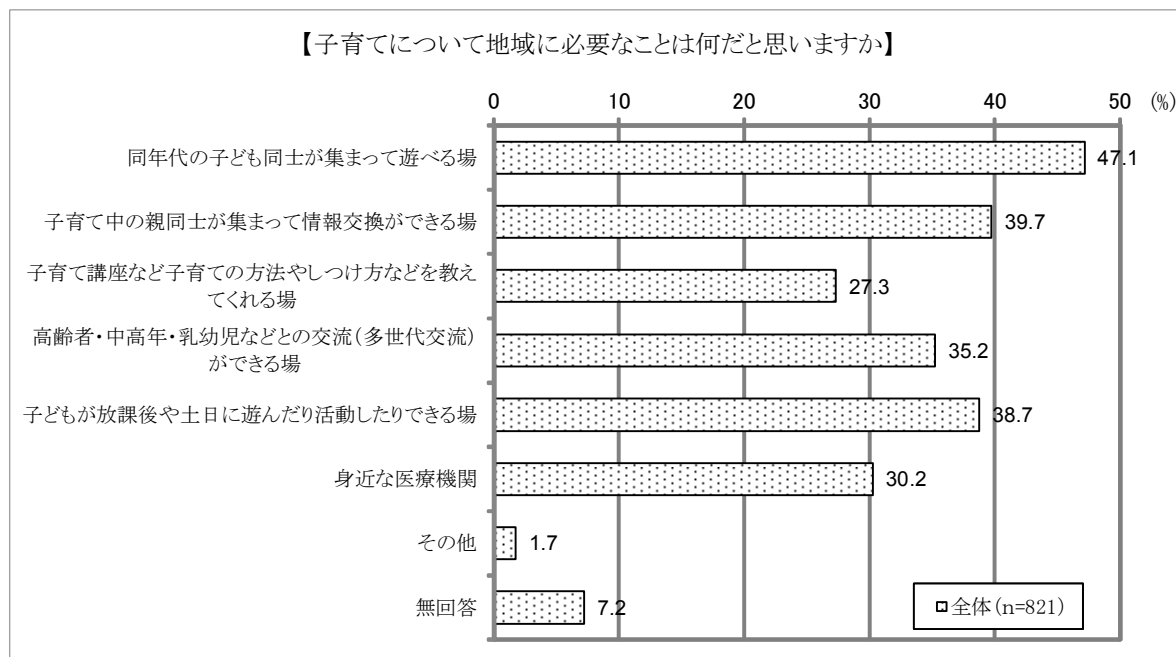
問27 障がいのある方とない方が、互いに理解しあうために必要なことは何だと思えますか。(2つまで○)

障がいのある方とない方が、互いに理解しあうために必要なことは、「障がいに対する正しい理解が持てる社会をつくる」が60.5%と最も高く、以下、「子どものころから、学校などで一緒に学んだり遊んだりする機会をつくる」(37.6%)、「障がいのある方の就労の場を広げる」(23.4%)、「障がいのある方が安心して外出できるようにする」(21.0%)、「地域で開催される各種行事に障がいのある方が参加しやすい機会をつくる」(19.5%)と続く。



問28 子育てについて地域に必要なことは何だと思えますか。(3つまで○)

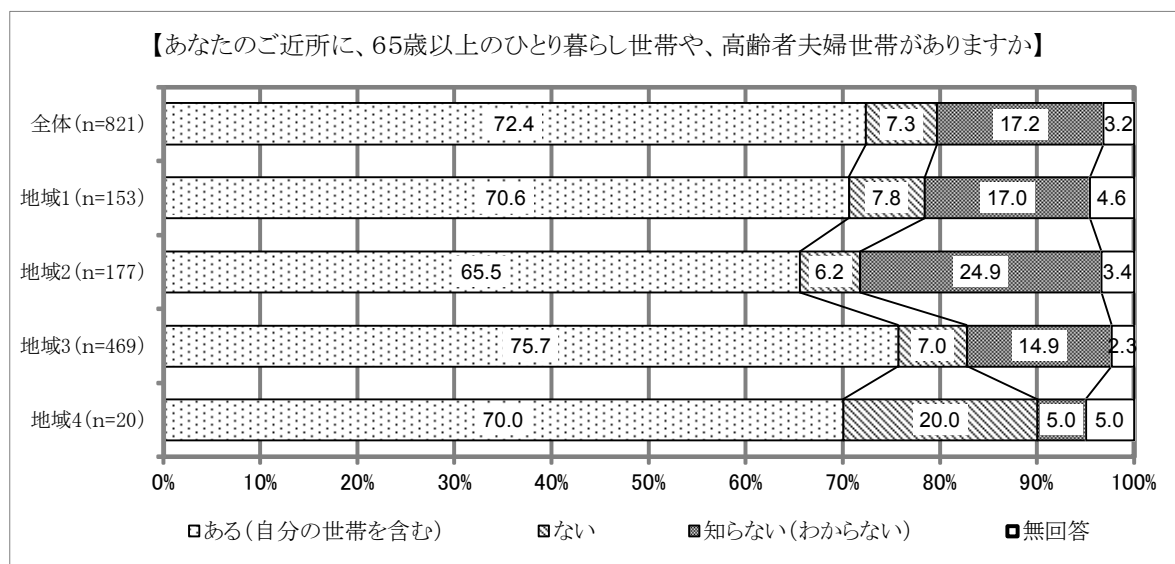
子育てについて地域に必要なことは、「同年代の子ども同士が集まって遊べる場」が47.1%と最も多く、以下「子育て中の親同士が集まって情報交換ができる場」(39.7%)、「子どもが放課後や土日に遊んだり活動したりできる場」(38.7%)、「高齢者・中高年・乳幼児などとの交流(多世代交流)ができる場」(35.2%)と続いている。



問29 あなたのご近所に、65歳以上のひとり暮らし世帯や、高齢者夫婦世帯がありますか。（1つだけに○）

近所に65歳以上のひとり暮らし世帯や高齢者夫婦世帯があるかについては、「ある（自分の世帯を含む）」が72.4%と多数を占め、「ない」は7.3%となっている。

なお、「知らない（わからない）」は17.2%であり、地域2（東本町、肥前町、有明町、高浜町、高戸、赤浜）（24.9%）で他より高い比率となっている。



地域1：本町、大和町、春日町、安良川

地域2：東本町、肥前町、有明町、高浜町、高戸、赤浜

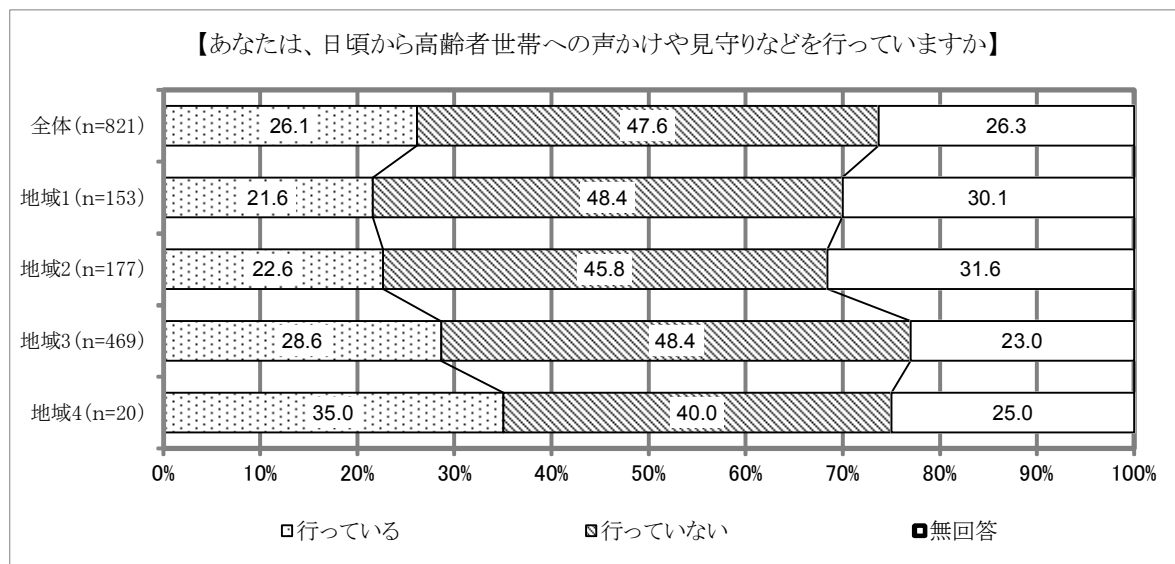
地域3：高萩、石滝、島名、秋山、上手綱(望海含む)、下手綱

地域4：横川、若栗、福平、中戸川、大能、上君田、下君田

問30 問29で「ある」と答えた方におうかがいします。あなたは、日頃から高齢者世帯への声かけや見守りなどを行っていますか。（1つだけに○）

「行っている」は26.1%、「行っていない」は47.6%となっている。

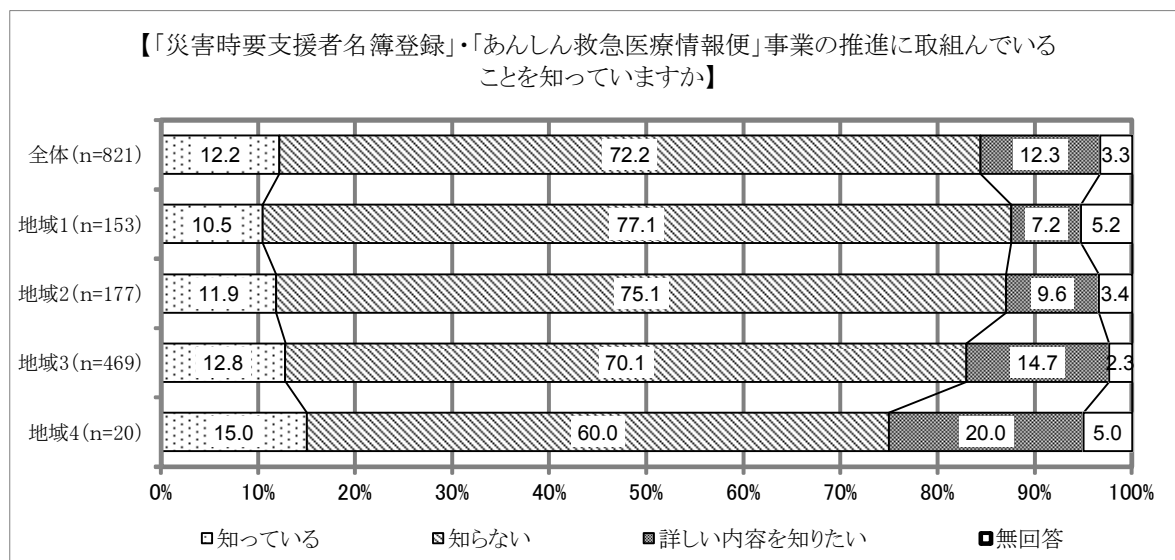
「行っている」の回答は、地域4（横川、若栗、福平、中戸川、大能、上君田、下君田）（35.0%）で他より高い比率となっている。



問31 現在高萩市では、65歳以上のひとり暮らしなどを対象として、災害時や救急時に支援が必要な方を対象とした、「災害時要支援者名簿登録」・「あんしん救急医療情報便」事業の推進に取り組んでいることを知っていますか。（1つだけに○）

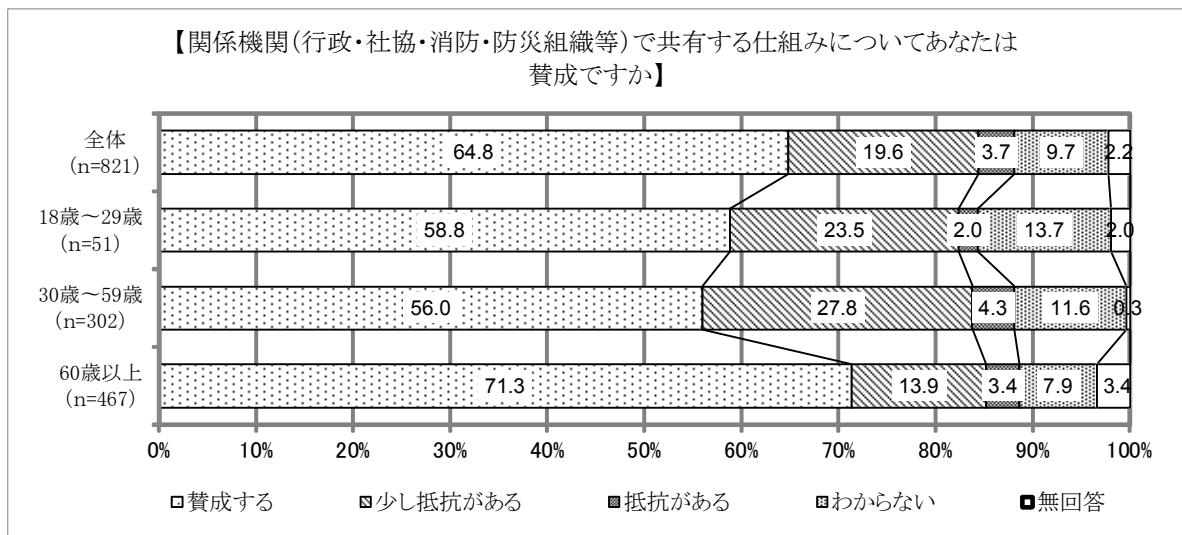
「災害時要支援者名簿登録」・「あんしん救急医療情報便」事業の取り組みについて、「知らない」は72.2%と多数を占め、「知っている」は12.2%、「詳しい内容を知りたい」は12.3%となっている。

「知っている」及び「詳しい内容を知りたい」は、地域4（横川、若栗、福平、中戸川、大能、上君田、下君田）で他より高い比率となっている。



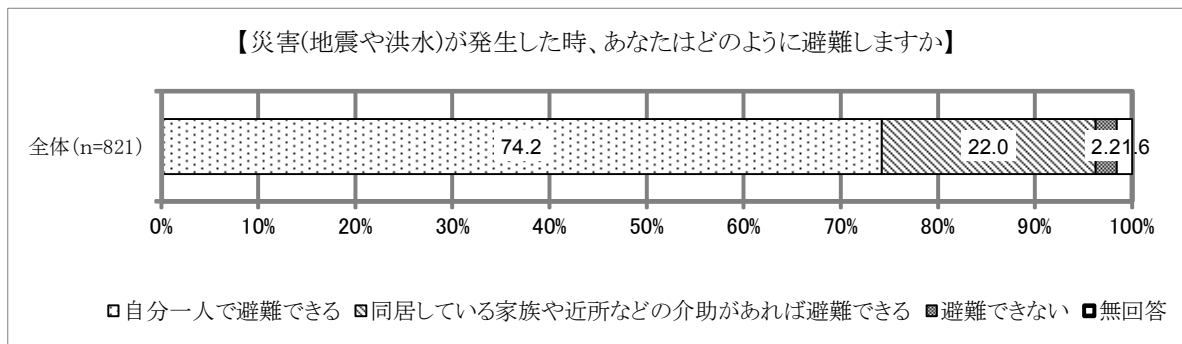
問3 2 災害発生時に備え、支援を必要とする人の生活状況や障がいの有無、緊急連絡先などの情報を登録し、関係機関（行政・社協・消防・防災組織等）で共有する仕組みについてあなたは賛成ですか。（1つだけに○）

支援を必要とする人の情報を関係機関で共有する仕組みについて、「賛成する」が64.8%と多数を占め、「少し抵抗がある」は19.6%、「抵抗がある」が3.7%などとなっている。「賛成する」は年齢の高い世代で、「少し抵抗がある」は若い世代で比率が高い。



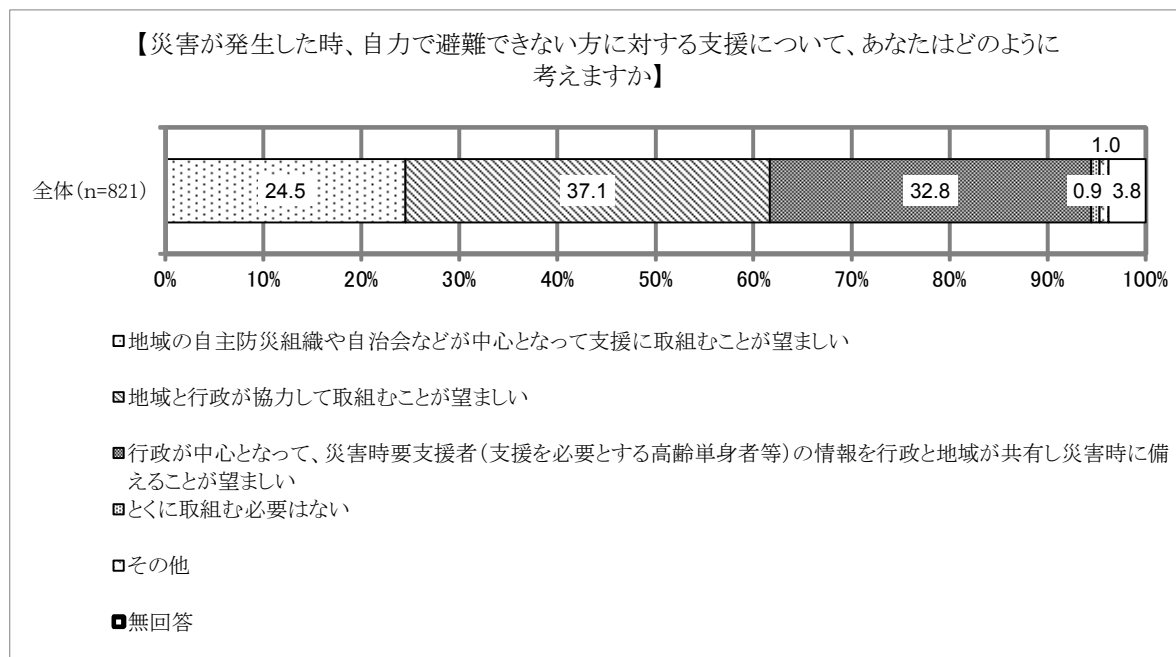
問3 3 災害(地震や洪水)が発生した時、あなたはどのように避難しますか。（1つだけに○）

災害時の避難について、「自分一人で避難できる」が74.2%と多数を占める一方で、「同居している家族や近所などの介助があれば避難できる」(22.0%)と「避難できない」(2.2%)を合わせて、全体の約1/4 (24.2%)が、支援が必要となっている。



問3 4 災害が発生した時、自力で避難できない方に対する支援について、あなたはどのように考えますか。（1つだけに○）

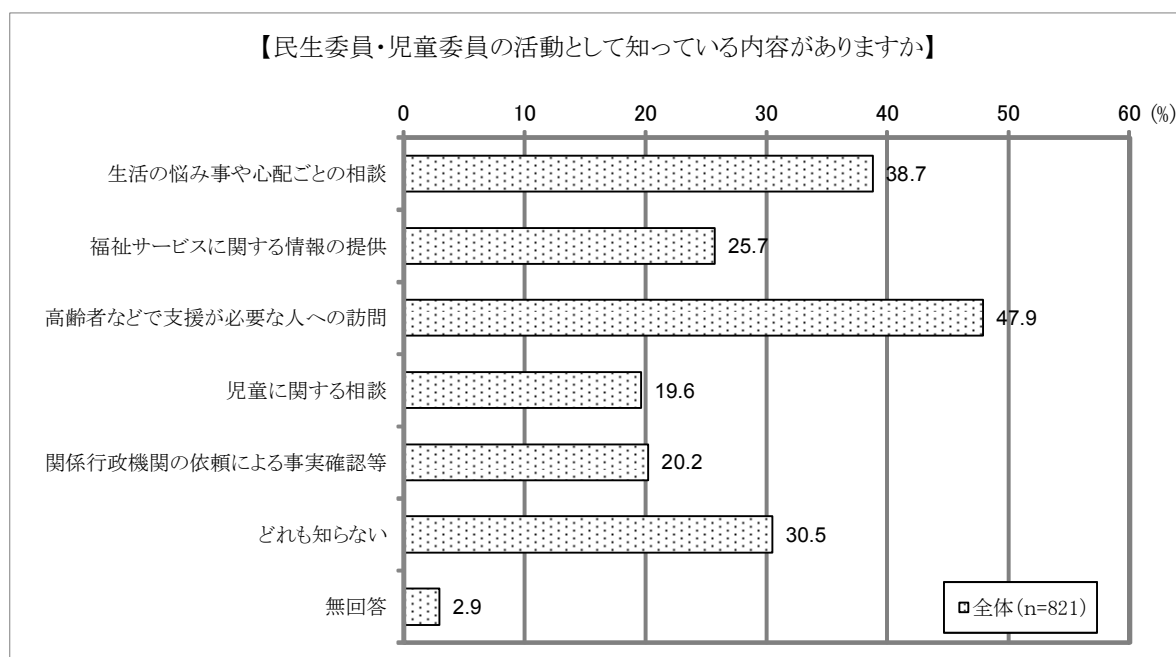
災害時に自力で避難できない方に対する支援については、「地域と行政が協力して取り組むことが望ましい」が37.1%と最も高い。次いで「行政が中心となって、災害時要支援者（支援を必要とする高齢単身者等）の情報を行政と地域が共有し災害時に備えることが望ましい」が32.8%、「地域の自主防災組織や自治会などが中心となって支援に取り組むことが望ましい」24.5%と続く。



問35 民生委員・児童委員は、社会奉仕の精神を持って、地域住民が安心して暮らすことのできる地域社会づくりを目指し様々な活動を行っています。民生委員・児童委員の活動として知っている内容がありますか。（あてはまるものすべてに○）

民生委員・児童委員の活動として知っている内容は、「高齢者などで支援が必要な人への訪問」が47.9%と最も高く、以下「生活の悩み事や心配ごとの相談」（38.7%）、「福祉サービスに関する情報の提供」（25.7%）、「関係行政機関の依頼による事実確認等」（20.2%）、「児童に関する相談」（19.6%）と続く。

なお、「どれも知らない」は30.5%である。



★最後に、住み慣れた地域で地域住民が共に助け合い、支え合い、安心して暮らすことができるまちづくりを進めるためにはどうしたらよいかなど、地域福祉に関するご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

192 人の方より意見等の回答があった。主な内容は以下のとおりである。

項目	人数	主な内容
高齢者・高齢化	47	高齢者の1人暮らしをしている人の訪問。本当に、困っている人への真剣な相談をしてほしいと思っている。
		人間関係の希薄、高齢化により地域活動への参加も難しくなっていると思われる。
		高齢者が多いので自分のことだけでまわりの人のことまで助け合いが出来ない。
常会(町内会)等地域組織	18	既存のしきたり、風習などを取り払い新参者や若い世代も抵抗なく地域の組織に参加できること。
		常会の皆さんとの交流を深めていく事は必要と思う。
		常会の充実。現在は未加入者が多いと聞いている。地域福祉の基は常会であると考える。
近所付き合い・声かけ	16	昔に比べて、人と人の距離が遠くなっている。お互い遠慮して気遣いすぎるような気もする。
		回覧板をまわす程度のつながりでもあれば、もう少し近所同士のつながりが生まれる気がする。
		日常よりご近所への声かけをして、いざという場合でも安心して支えられるつきあいをしたい。
イベント・交流・産業振興	15	高齢者、障がい者、子どもが楽しめるイベント。住民が楽しみ互いに助け合える町づくりにしてほしい。
		市民税を下げる。働ける企業が少ない。市民が裕福になれば心の余裕も生まれ、周囲の気遣いも出来るようになるのでは。
		今でさえ(病院)映画、ショッピングなどを市内で楽しめる所はない。高齢者が外出できる様な町づくりを希望する。
交通・移動手段	15	市の行事である夏祭り、文化会館等に参加したいが山間部に住む者に行き帰り足の心配がある。
		月に3~4回使用できるタクシー券を無料で配ってほしい。(70才以上)
		福祉タクシーをなぜ廃止にしたのか知りたい。タクシー会社に尋ねたら補助金がなくなったからの返事、時代に逆行している。

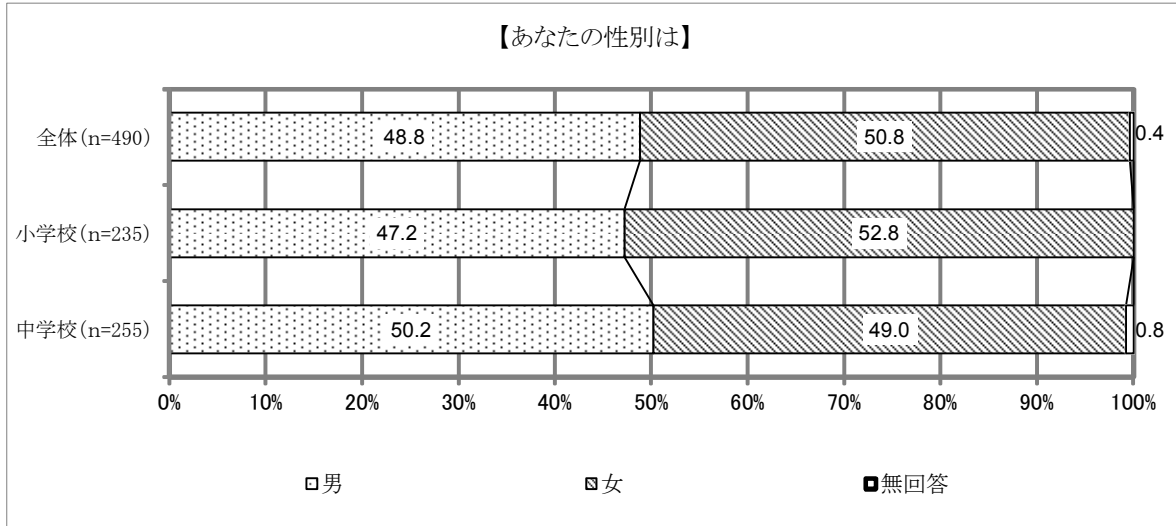
項目	人数	主な内容
健康・医療	14	高齢者が多くなっているため、病院に通院する時のバスなどを安い料金で利用できる様をお願いしたい(タクシー乗り合わせ等)。
		高萩市に住居を移して5年近くになるが地域担当の民生委員も知らない。高萩市の協同病院の充実(医師確保)をお願いする。
		発達障害というものを皆さんに(特に役所の方々に)理解して頂けたらとてもありがたい。
民生委員	13	民生委員の活動はあまり知らない。民生委員が誰だかも知らない人が多い。民生委員の活動がもっと必要だと思う。
		民生委員の質が地区によってバラツキがあると感じるため改善してほしい。(知識や地区で支援が必要と考えられる世帯へのサポート、見守りが特に)。
		民生委員の方にもう少一人暮らしの方もいるので見回りをしたり、声をかけたりした方が良いと思う。
情報・広報	26	休日の昼間とかに、市民が集まる所(スーパー、コンビニなど)で、どのようなイベントがいつ実施されるのか、広報活動を行えば良いのでは。
		可能な限り行政が積極的に情報を発信していくべきだと思う。現段階では、そういった情報が不足していると感じている。
		市報・広報紙などは、新聞に入れるより回覧として廻るようにした方が隣どうし声をかける機会になるのではないかと。
行政	43	行政と地域の信頼関係を結ぶことが、第一の作業かと思う。
		「よろず相談課」のようなものを設け、困り事のある人、買い物を頼みたい人、時間があって何かしたい人など、ちょっと困る暮らしの橋渡しをするよろずを相談する窓口を作っても良いと思う。
		行政だけで地域福祉に取り組むのはきっと限界もあるはず(高齢化等で)。地域を多く巻き込み取り組めるような仕組み作りが必要だと思う。
その他	84	子ども・子育て、障がい者、生活保護、ボランティア、地域活動、災害、都市基盤(道路・公園等)、アンケート、相談、社会福祉協議会、など

※複数の項目にわたる意見があるため、各項目の人数の合計は、回答者数(192人)とは一致しない。

Ⅱ 小中学生アンケート 集計結果

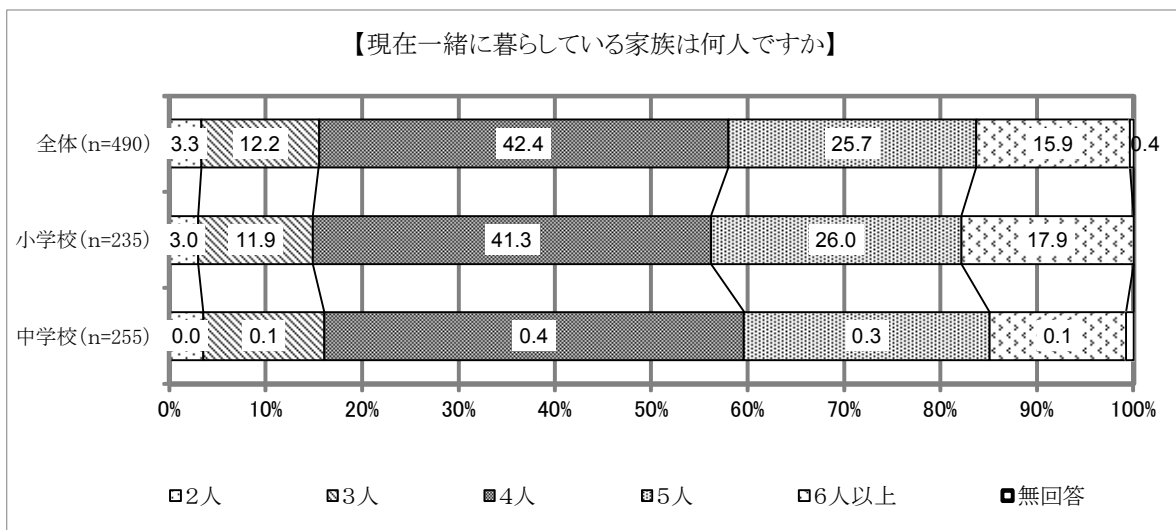
問1. あなたの性別は。【〇は1つだけ】

性別は、「男性」が48.8%、「女性」が50.8%と、わずかながら女性の比率が高い。



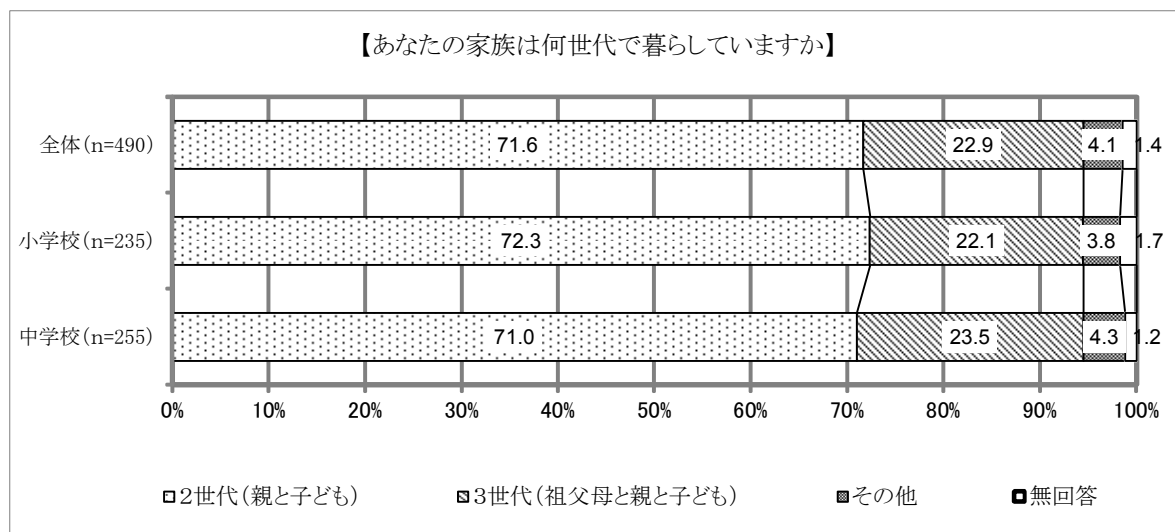
問2. 現在一緒に暮らしている家族は何人ですか。(あなたを含めた数) 【〇は1つだけ】

家族数は、「4人」が42.4%で最も高く、以下「5人」(25.7%)、「6人以上」(15.9%)、「3人」(12.2%)、「2人」(3.3%)となっている。



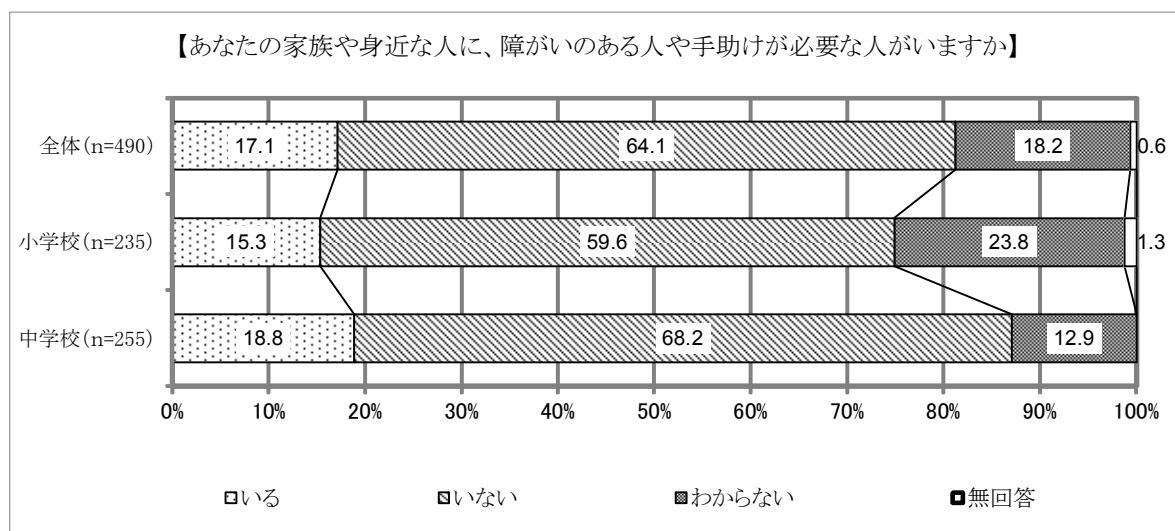
問3. あなたの家族は何世代で暮らしていますか。【○は1つだけ】

世帯構成は「2世代（親と子ども）」が71.6%と多数を占め、「3世代（祖父母と親と子ども）」は22.9%となっている。



問4. あなたの家族や身近な人に、障がいのある人や手助けが必要な人がいますか。【○は1つだけ】

家族や身近に障がいのある人や手助けが必要な人がいるかについては、「いない」が64.1%と多数を占め、「いる」は17.1%、「わからない」は18.2%となっている。
 なお、小学校では「わからない」が23.8%と高い。

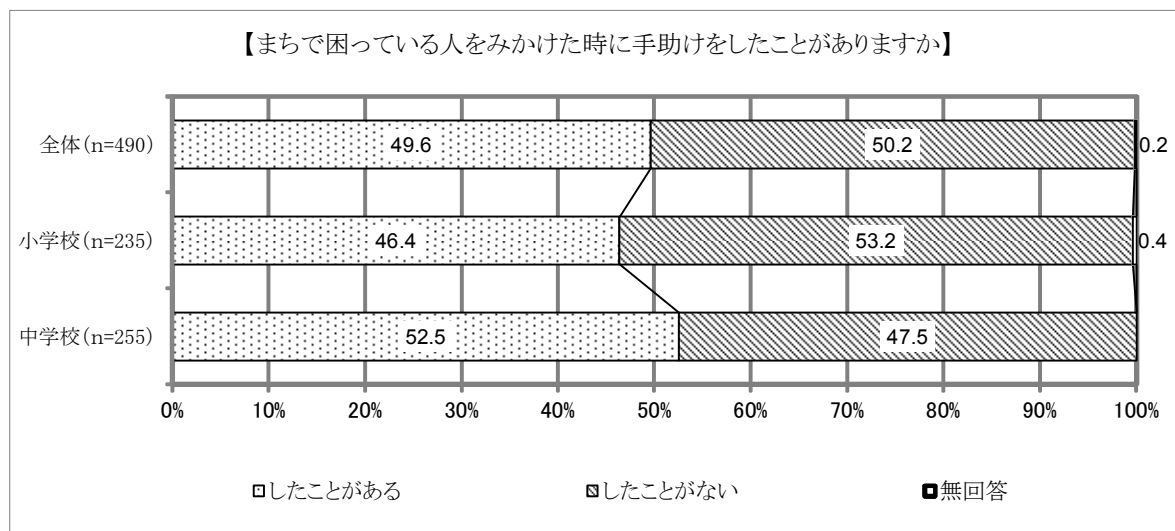


問5. まちで困っている人をみかけた時に手助けをしたことがありますか。

【〇は1つだけ】

まちで困っている人をみかけた時に手助けをしたことがあるかについては、「したことがある」は49.6%、「したことがない」は50.2%と、ほぼ半々となっている。

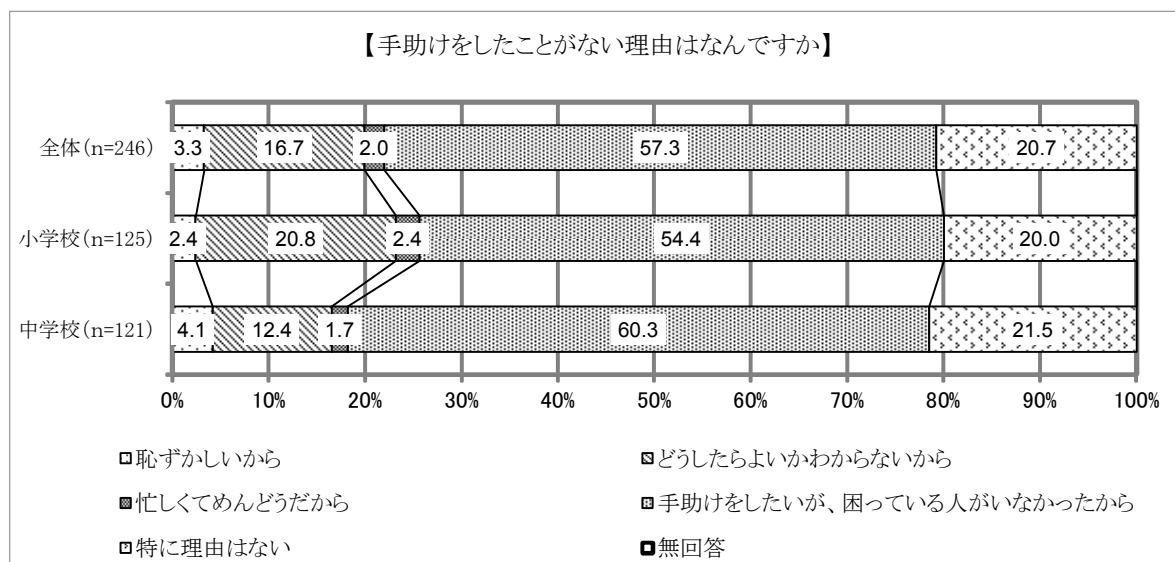
「したことがある」の回答は、わずかではあるが、小学校(46.4%)より中学校(52.5%)が高い比率となっている。



問6. 問5で「したことがない」と答えた方にお聞きします。手助けをしたことがない理由は何ですか。【〇は1つだけ】

手助けをしたことがない理由は、「手助けをしたいが、困っている人がいなかったから」が57.3%と最も高く、「特に理由はない」が20.7%、「どうしたらよいかわからないから」が16.7%で続いている。「恥ずかしいから」(3.3%)及び「忙しくてめんどうだから」(2.0%)の回答は少数であった。

小中学校別に見ると、「手助けをしたいが、困っている人がいなかったから」は中学校が60.3%と小学校(54.4%)より高く、一方、小学校では「どうしたらよいかわからないから」が20.8%と、中学校(12.4%)より高い比率になっている。

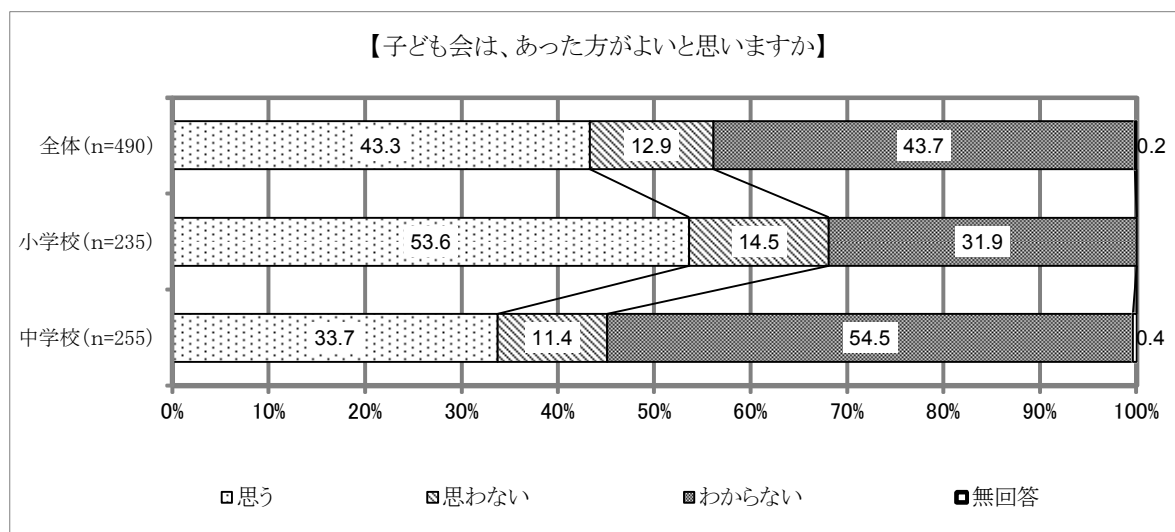


問7. 子ども会についてお聞きします。子ども会は、あった方がよいと思いますか。

【〇は1つだけ】

子ども会は、あった方がよいと思うかについては、「思う」が43.3%、「思わない」が12.9%となっている。なお、「わからない」が43.7%で最も多い回答であった。

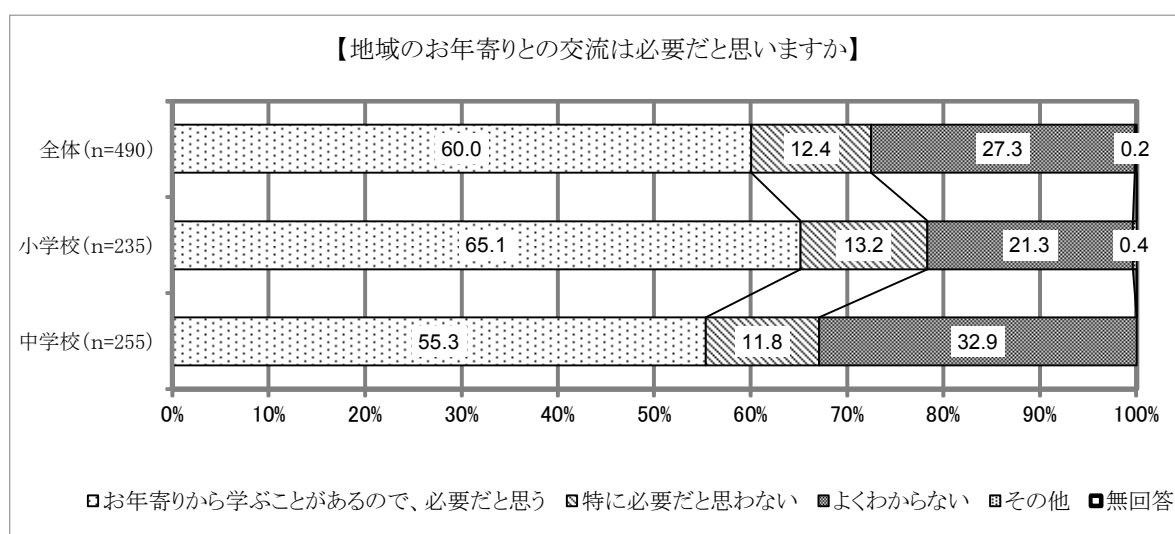
小学校では「思う」が53.6%と過半数を占めているのに対し、中学校では「思う」は33.7%にとどまり、「わからない」(54.5%)が過半数を占めている。



問8. 地域のお年寄りとの交流は必要だと思いますか。【〇は1つだけ】

地域のお年寄りとの交流は必要だと思うかについては、「お年寄りから学ぶことがあるので、必要だと思う」が60.0%で多数を占めており、「特に必要だと思わない」は12.4%となっている。なお、「よくわからない」が27.3%となっている。

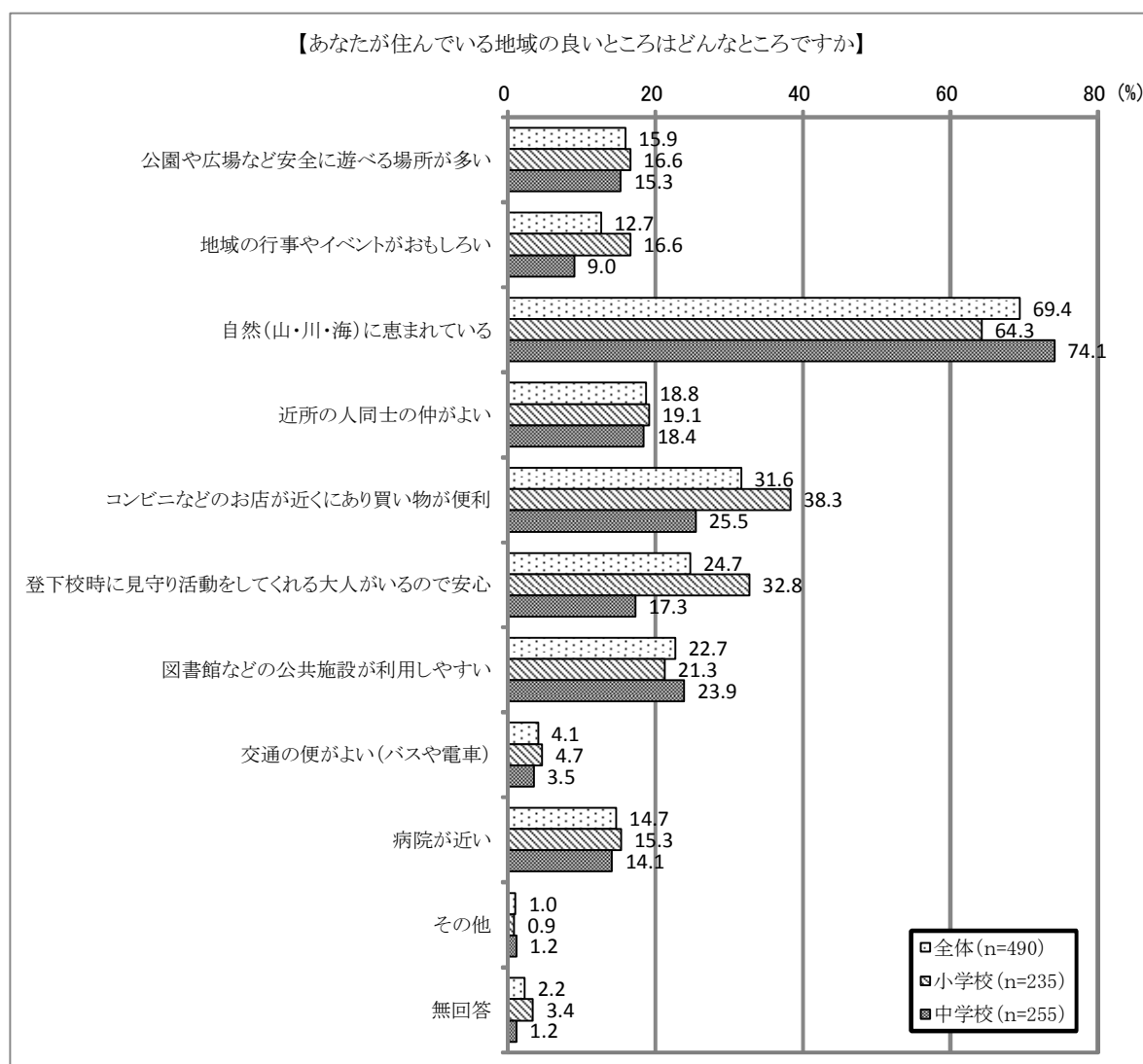
「お年寄りから学ぶことがあるので、必要だと思う」の回答は、小中学校とも過半数を占めているが、小学校が65.1%と、中学校(55.3%)より約10%高い。



問9. あなたが住んでいる地域の良いところはどんなところですか。【〇は3つ以内】

住んでいる地域の良いところについては、「自然（山・川・海）に恵まれている」が69.4%で最も高く、以下、「コンビニなどのお店が近くにあり買い物が便利」（31.6%）、「登下校時に見守り活動をしてくれる大人がいるので安心」（24.7%）、「図書館などの公共施設が利用しやすい」（22.7%）と続いている。

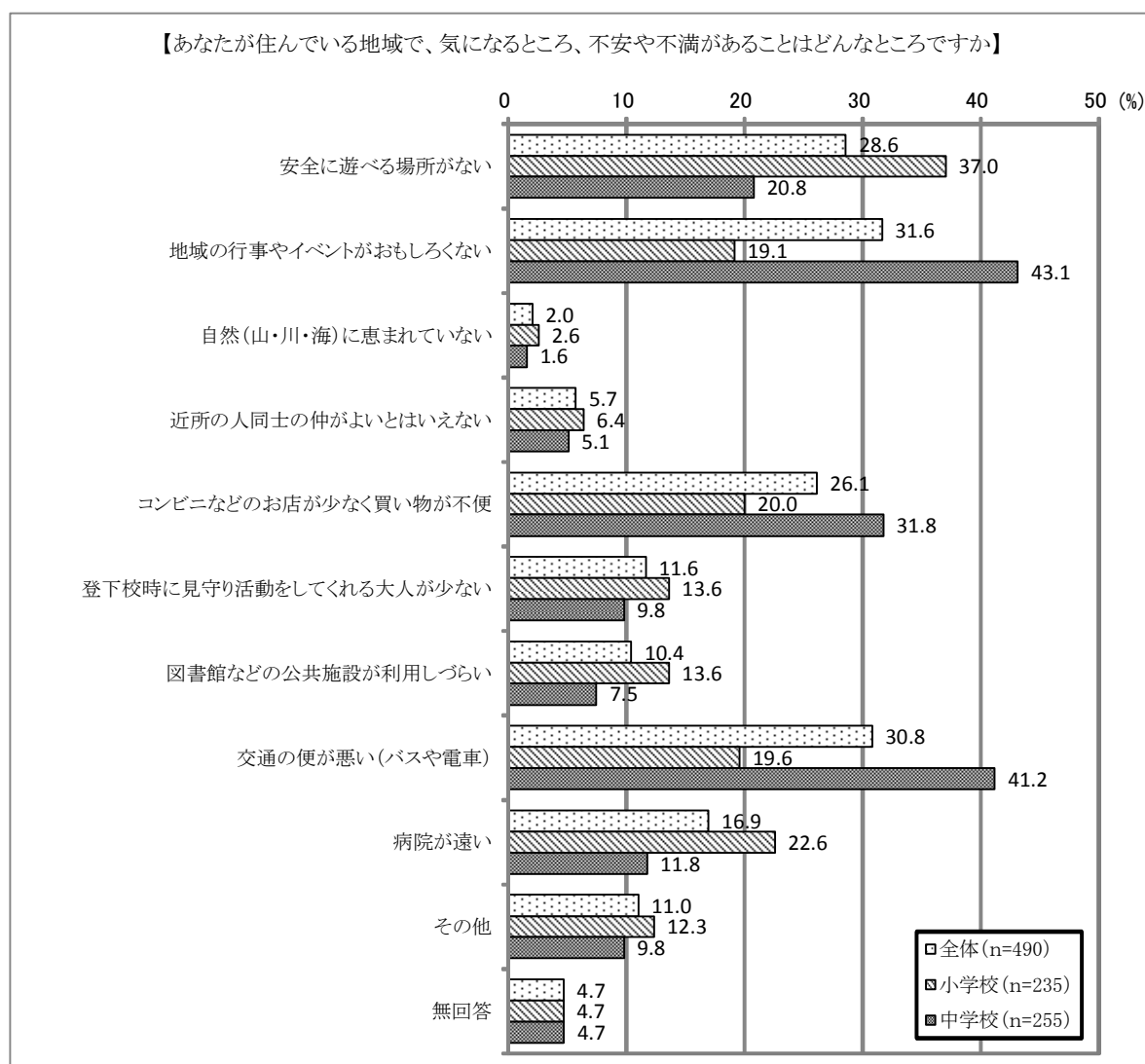
小中学校とも「自然（山・川・海）に恵まれている」が最も高い比率となっているが、中学校が74.1%と、小学校の64.3%より約10%高い。他に中学校の比率が高いのは「図書館などの公共施設が利用しやすい」（中学校23.9%、小学校21.3%）のみであり、「コンビニなどのお店が近くにあり買い物が便利」（小学校38.3%、中学校25.5%）や「地域の行事やイベントがおもしろい」（小学校16.6%、中学校9.0%）といった買い物の利便性、地域の魅力に関しては、視野や行動範囲が広がった中学生の評価が低下する結果となった。



問10. あなたが住んでいる地域で、気になるところ、不安や不満があることはどんなところですか。【〇は3つ以内】

住んでいる地域で気になるところ、不安や不満があることは、「地域の行事やイベントがおもしろくない」が31.6%で最も高く、以下、「交通の便が悪い(バスや電車)」(30.8%)、「安全に遊べる場所がない」(28.6%)、「コンビニなどのお店が少なく買い物が不便」(26.1%)と続いている。

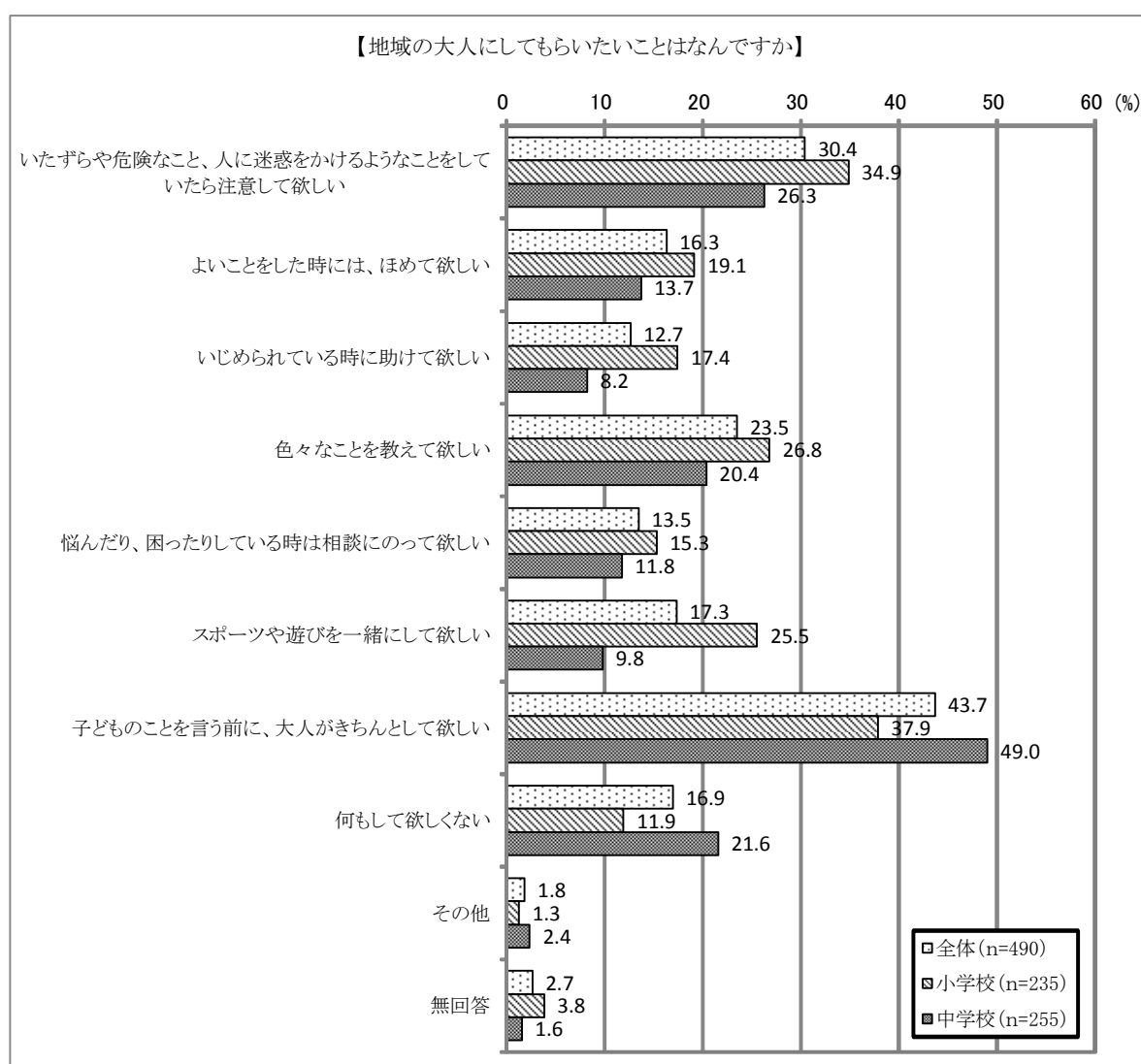
小学校と中学校で回答傾向が大きく異なっており、小学校では「安全に遊べる場所がない」(37.0%)、「病院が遠い」(22.6%)、「コンビニなどのお店が少なく買い物が不便」(20.0%)が上位である。一方、中学校では「地域の行事やイベントがおもしろくない」(43.1%)、「交通の便が悪い」(41.2%)、「コンビニなどのお店が少なく買い物が不便」(31.8%)が上位であり、さらに、この3項目は小学校より中学校の比率が高い項目でもある。特に、「地域の行事やイベントがおもしろくない」及び「交通の便が悪い」は小学校の比率は中学校の半分以下の19%代と差が大きい。



問 1 1. 地域の大人にしてもらいたいことはなんですか。【〇は3つ以内】

地域の大人にしてもらいたいことは、「子どものことを言う前に、大人がきちんとして欲しい」が 43.7%で最も高く、「いたずらや危険なこと、人に迷惑をかけるようなことをしていたら注意して欲しい」(30.4%)、「色々なことを教えて欲しい」(23.5%)と続いている。

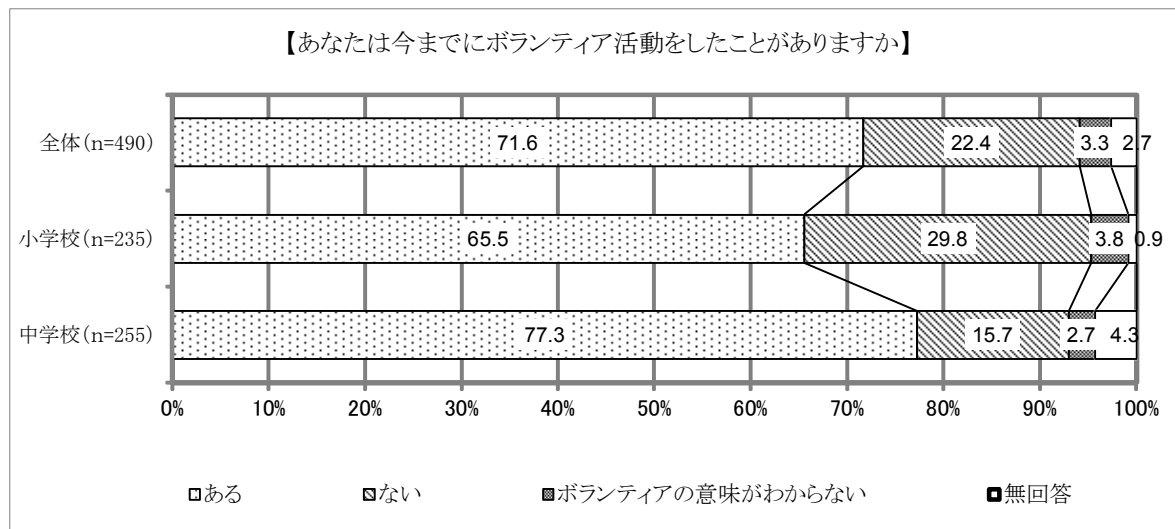
小中学校とも「子どものことを言う前に、大人がきちんとして欲しい」が第1位、「いたずらや危険なこと、人に迷惑をかけるようなことをしていたら注意して欲しい」が第2位であるが、小学校では「スポーツや遊びを一緒にして欲しい」(25.5%)や「いじめられている時に助けて欲しい」(17.4%)が、中学校では「何もして欲しくない」(21.6%)が、それぞれ他より大きく比率が高い項目であり、特徴的である。



問12. あなたは今までにボランティア活動をしたことがありますか。【〇は1つだけ】

ボランティア活動の経験は、「ある」が71.6%と多数を占め、「ない」は22.4%、「ボランティアの意味がわからない」が3.3%となっている。

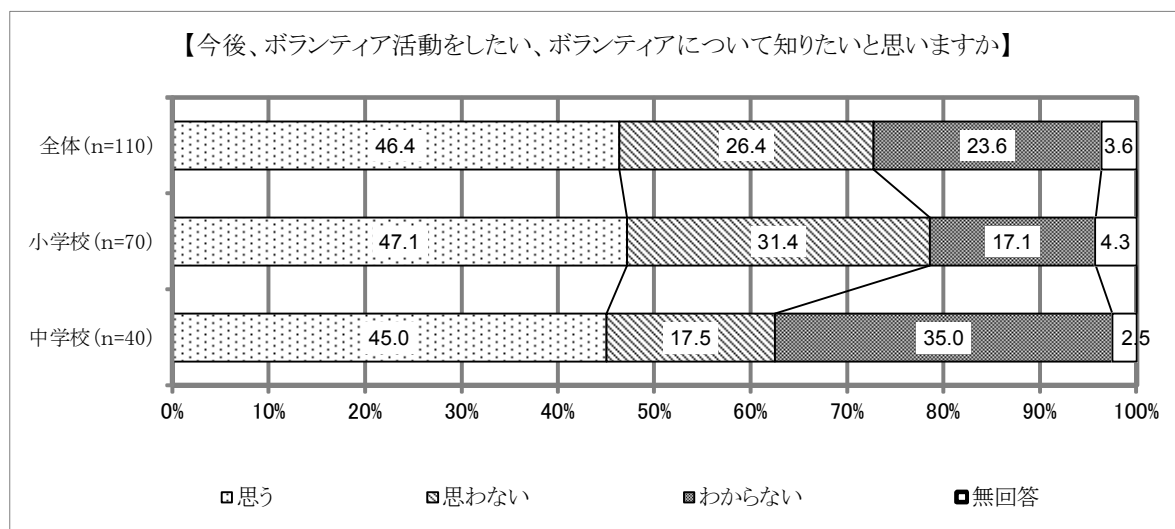
「ある」の回答は、中学校が77.3%と、小学校の65.5%を上回っている。



問13. 問12で「2. ない」とこたえた方にお聞きします。今後、ボランティア活動をしたい、ボランティアについて知りたいと思いますか。【〇は1つだけ】

今後、ボランティア活動をしたい、ボランティアについて知りたいと思うかについては、「思う」が46.4%と半数近くを占め、「思わない」は26.4%、「わからない」が23.6%となっている。

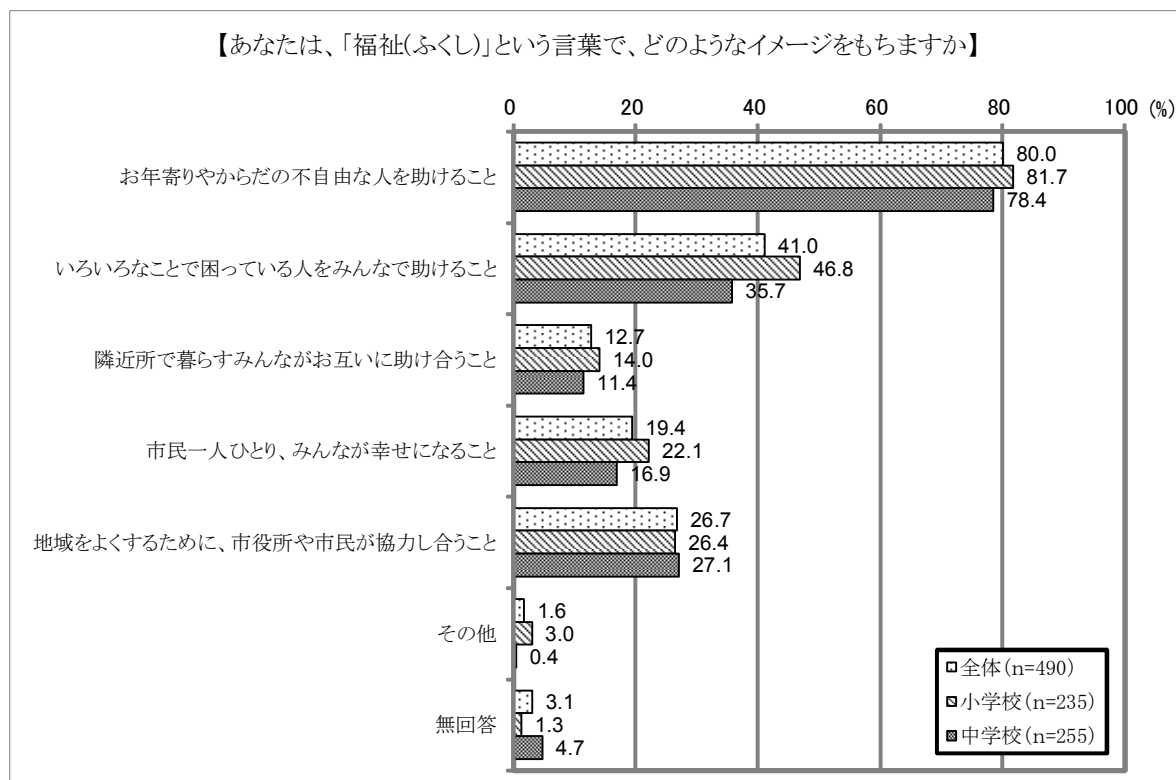
「思う」の回答は、小学校47.1%、中学校45.0%と同程度であるが、小学校は「思わない」が31.4%、中学校では「わからない」が35.0%と他より高い。



問14. あなたは、「福祉(ふくし)」という言葉で、どのようなイメージをもちますか。
【〇は3つ以内】

「福祉」という言葉で持つイメージは、「お年寄りやからだの不自由な人を助けること」が80.0%と多数を占め、以下、「いろいろなことで困っている人をみんなで助けること」(41.0%)、「地域をよくするために、市役所や市民が協力し合うこと」(26.7%)と続いている。

小中学校とも、概ね同様の傾向にあるが、ほとんどの項目で小学校の回答比率が高く、特に「いろいろなことで困っている人をみんなで助けること」は10%以上(小学校46.8%、中学校35.7%)高い。



問15. 最後に、地域でみんなが「安心」して暮らせるために必要なことは何だと思いますか。【〇は3つ以内】

地域でみんなが「安心」して暮らせるために必要なことは、「困っている人がいたら、お互いに助け合う」が67.6%と最も高く、以下、「近所同士あいさつしたり、声をかけあったりする」(52.7%)、「人の迷惑になるようなことをしないようにする」(42.4%)、「自分でできることは自分でする」(34.7%)と続いている。

小中学校とも、概ね同様の傾向にあるが、全ての項目で小学校の回答比率が高く、特に「近所同士あいさつしたり、声をかけあったりする」は10%以上(小学校58.3%、中学校47.5%)高い。

